

スリ・ランカ国  
ペラデニア大学歯学教育プロジェクト  
事前調査団 / 長期調査員報告書

平成10年4月  
(1998年4月)

国際協力事業団  
医療協力部

## 序 文

ペラデニア大学の歯学部は、スリ・ランカ民主社会主義共和国唯一の歯科医師養成機関であり、歯科口腔疾患の対策のために重要な役割を果たしていますが、既存の歯学部の施設と機材は老朽化が進んでおり、専用の実習病院もないことから、歯科医療従事者の養成は、前近代的な方法に甘んじなければならない状況にありました。

スリ・ランカ民主社会主義共和国政府は、同国の歯科医療従事者の資質と患者に対するケアの向上をめざすため、同歯学部の改築および実習病院の新築について、わが国の無償資金協力を要請するとともに、歯学教育の改善にかかる技術協力を要請越しました。

これを受け、国際協力事業団はプロジェクト方式技術協力による、歯学教育プロジェクト実施の可能性について調査すべく、1997年1月5日から1月16日までの日程で当事業団医療協力部医療協力第一課長苗村光廣を団長として、事前調査団を派遣しました。

さらに、協力の枠組みを具体化するために、同年5月13日から6月19日まで、長期調査員を派遣しました。

本報告書は、同調査団および調査員の調査結果を取りまとめたものです。

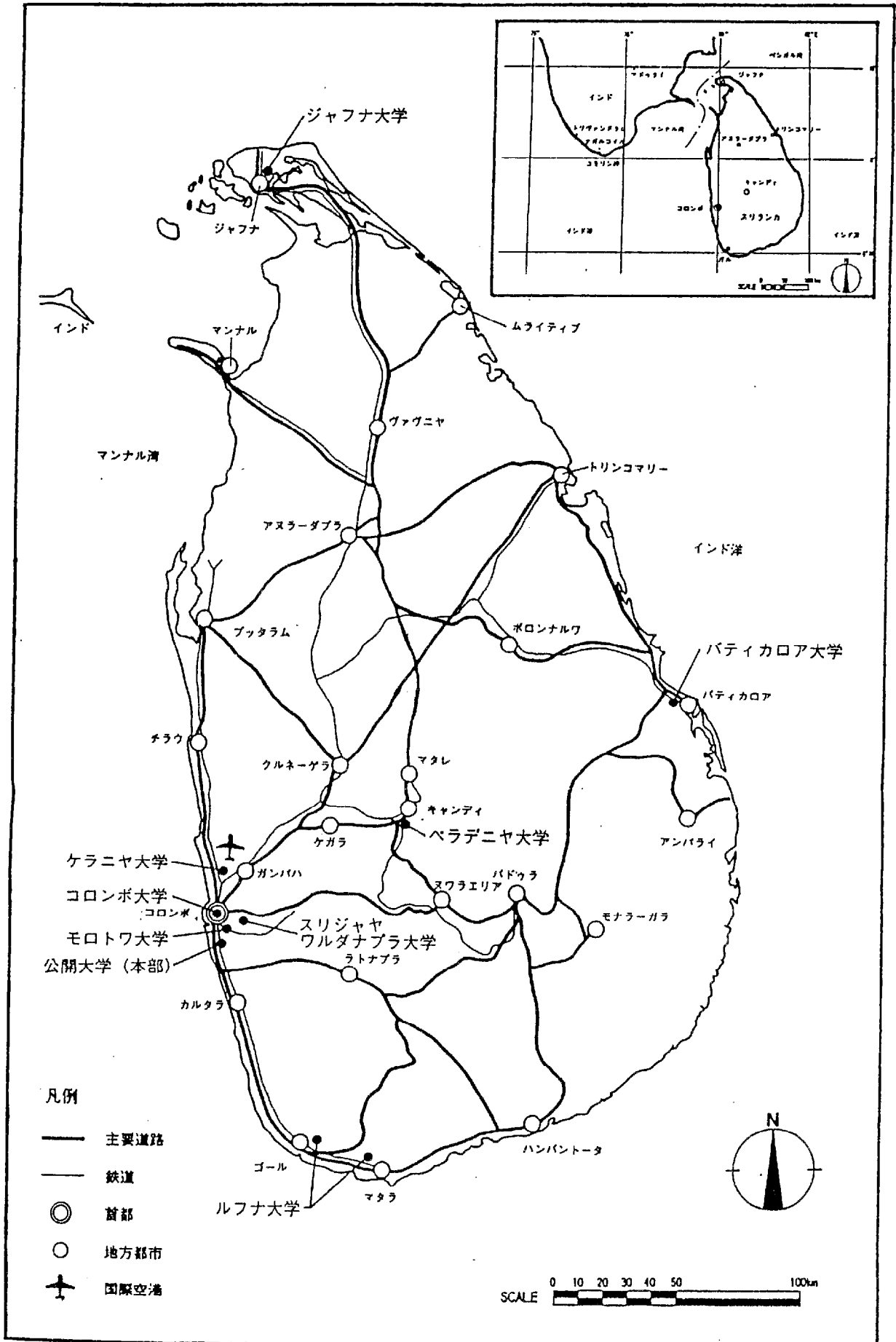
ここに本調査にご協力を賜りました関係各位に深甚なる謝意を表しますとともに、本プロジェクトの実施に向けて、今後ともご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

1998年4月

**国際協力事業団**

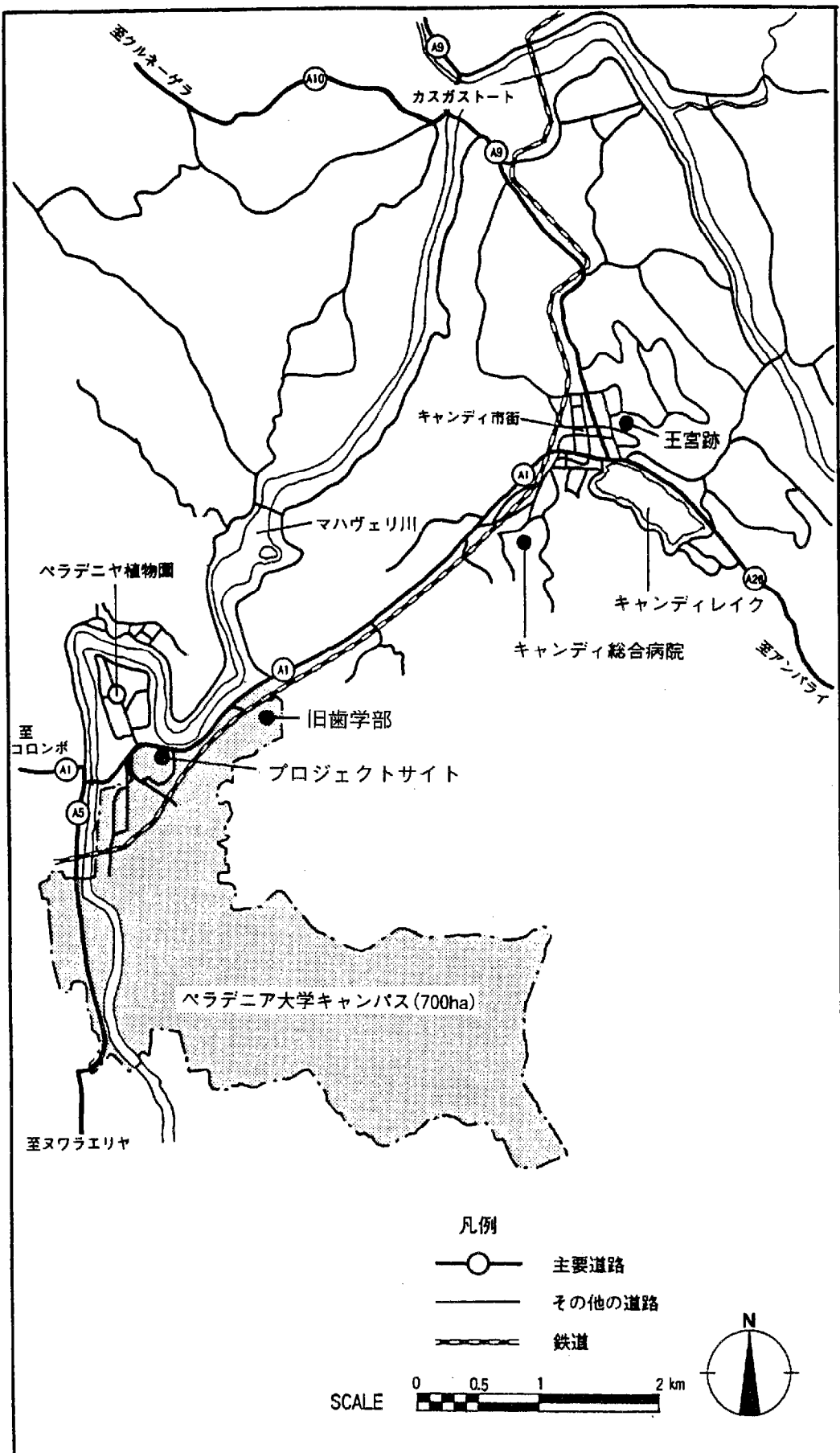
**医療協力部長 福原 毅文**

□スリランカ全図



□キャンディ地区・ペラデニア大学位置図

至トリンコマリ



# 目 次

序 文

地 図

|                           |   |
|---------------------------|---|
| 1 . 事前調査団派遣 -----         | 1 |
| 1 - 1 調査団派遣の目的 -----      | 1 |
| 1 - 2 調査団の構成 -----        | 1 |
| 1 - 3 調査日程 -----          | 2 |
| 1 - 4 主要面談者 -----         | 3 |
| 1 - 5 調査結果要約 -----        | 5 |
| 2 . 長期調査員派遣 -----         | 7 |
| 2 - 1 調査員派遣の目的 -----      | 7 |
| 2 - 2 調査員の構成および派遣期間 ----- | 7 |
| 2 - 3 調査結果 -----          | 7 |

附属資料

|                         |     |
|-------------------------|-----|
| 事前調査団ミニッツ -----         | 153 |
| スリ・ランカ側からの技術協力要請書 ----- | 160 |
| 長期調査報告書（英文） -----       | 178 |

# 1 . 事前調査団派遣

## 1 - 1 調査団派遣の目的

ペラデニア大学は過去40年、スリ・ランカ民主社会主義共和国（以下、スリ・ランカ）における唯一の歯科医師養成機関であるが、その建物は元来歯科医師養成のために設計されたものではなく、機材とともに老朽化が進み、時代に取り残されたものとなっている。このため歯学教育の講義ならびに臨床実習は、前近代的な方法に甘んじなければならない状況である。スリ・ランカ政府は歯学部ならびに実習病院全体を再構築し、現地のニーズにあった近代的技術による卒後教育システムを構築し、同国の歯科医療従事者の資質と患者に対するケアの向上をめざすため、同歯学部および実習病院の建設にかかる無償資金協力をわが国に要請越した。さらに同施設で使用する供与機材の使用法の習得および歯学教育を現地のニーズにあったレベルまで向上させるための技術協力の要請があげられた。

そこで今回、技術協力プロジェクト実施に向けての基本的枠組みづくりについて協議確認を行うべく、事前調査を実施したものである。

なお、1996年5月には無償資金協力の交換公文（E/N）（22.45億円）が結ばれ、10月に着工、完工時期は1998年2月を予定している。

## 1 - 2 調査団の構成

|    | 担 当  | 氏 名   | 所 属                        |
|----|------|-------|----------------------------|
| 団長 | 総 括  | 苗村 光廣 | JICA医療協力部医療協力第一課長          |
| 団員 | 歯学教育 | 吉田 定宏 | 朝日大学歯学部長                   |
| 団員 | 歯学教育 | 田上 順次 | 東京医科歯科大学歯学部歯科保存学第一講座教授     |
| 団員 | 歯科保健 | 半田祐二郎 | JICA国際協力客員専門員              |
| 団員 | 技術協力 | 地神 一美 | 外務省経済協力局技術協力課課長補佐          |
| 団員 | 衛生行政 | 古畑 雅一 | 厚生省大臣官房国際課国際協力室室長補佐        |
| 団員 | 教育行政 | 山腰 俊昭 | 文部省高等教育局医学教育課大学病院指導室病院第三係長 |
| 団員 | 協力計画 | 大塚 卓哉 | JICA医療協力部医療協力第一課職員         |

1 - 3 調査日程

| 日順 | 月 日  | 曜日 | 移 動 お よ び 業 務  |
|----|------|----|--|
| 1  | 1月5日 | 日  | 移動(成田 バンコク コロンボ)   |
| 2  | 6日   | 月  | 移動(バンコク コロンボ)<br>09:00 JICA スリ・ランカ事務所表敬/打合せ<br>10:00 在スリ・ランカ日本大使館表敬/打合せ<br>11:00 大蔵省外国援助局表敬/協議<br>14:00 UNICEF 表敬<br>15:10 大学評議会(UGC)表敬/協議<br>16:40 高等教育省表敬/協議<br>17:30 保健省表敬/協議 |
| 3  | 7日   | 火  | 09:30 WHO 表敬<br>移動(コロンボ キャンディ)<br>14:20 ペラデニア大学歯学部表敬<br>15:50 ペラデニア大学副学長表敬<br>16:50 ペラデニア大学視察  |
| 4  | 8日   | 水  | 09:00 ペラデニア大学歯学部視察<br>10:40 ペラデニア大学歯学部協議<br>14:10 歯学部建設計画プリーフィング(マツダコンサルタンツ)<br>15:00 建設サイト視察  |
| 5  | 9日   | 木  | 09:00 ペラデニア大学歯学部協議(生理学/一般解剖学/歯牙解剖学/<br>生化学/薬理学/歯科補綴学/微生物学/口腔内科/一般病理学/<br>口腔病理学/歯科保存学/歯周病学/予防歯学/小児歯科)   |
| 6  | 10日  | 金  | 09:00 ペラデニア大学歯学部協議(歯科放射線科/口腔外科学/矯正<br>歯科/歯学部長室)<br>14:00 ペラデニア教育病院表敬/視察  |
| 7  | 11日  | 土  | 移動(キャンディ コロンボ)<br>資料整理   |
| 8  | 12日  | 日  | 資料整理   |
| 9  | 13日  | 月  | 10:00 議事録(ミニッツ)署名交換<br>14:30 JICA スリ・ランカ事務所報告<br>15:30 生物医学工学サービス局(BES)視察<br>16:30 医学研究所(MRI)視察  |
| 10 | 14日  | 火  | 10:00 看護教育プロジェクト視察   |
| 11 | 15日  | 水  | 移動(コロンボ バンコク 成田)   |
| 12 | 16日  | 木  | 移動(バンコク 成田)  |

## 1 - 4 主要面談者

### (1) スリ・ランカ側関係者

#### 1 ) 大蔵省外国援助局 ( Department of External Resources, Ministry of Finance & Planning General Treasury )

B. H. Passaperuma Deputy Director ( 副官 )

A. Sooriyagoda Assistant Director ( 副官補佐 )

#### 2 ) UNICEF ( Unicef, Colombo )

Dr. Hiranthi Wijemanne Programme Officer ( プログラム・オフィサー )

S. M. M. Nizar Information Officer ( インフォメーション・オフィサー )

Ms. Yoshie Yamamoto Assistant Project Officer ( アシスタント・プロジェクト・オフィサー )

#### 3 ) 大学評議会 ( University Grants Commission: UGC )

Prof. S. Tilakaratna Chairperson ( 委員長 )

R. H. M. Piyasena Additional Secretary ( 副官 )

#### 4 ) 高等教育省 ( Ministry of Education & Higher Education )

M. D. D. Pieris Secretary ( 事務次官 )

C. Abeygunawardana Additional Secretary ( 副官 )

#### 5 ) 保健省 ( Ministry of Health, Highways & Social Services )

Dr. Dudley Dissanayake Secretary ( 事務次官 )

Dr. S. Abayaratna Director, Dental Sciences ( 部長 )

Dr. Dalpatadu Deputy Director, General Health Sciences (Planning)  
( 副官 )

Dr. Jeganathan Deputy Director, General Health Services (Medical Services)  
( 副官 )

#### 6 ) WHO ( World Health Organization )

Dr. A. S. Abdullah Medical Officer ( メディカル・オフィサー )

Mr. Nandana de Silva MIS Specialist/Programme Officer  
( MIS専門家/プログラム・オフィサー )

#### 7 ) ペラデニア大学 ( University of Peradeniya )

歯学部 ( Faculty of Dental Sciences )

Dr. Ajith W. Ranasinghe Dean ( 部長 )

Prof. A. N. I. Ekanayake Professor of Community Dentistry, Department of  
Community Dental Health ( 予防歯科講座教授 )

Dr. R. L. Wijeyeweera Head, Division of Paedodontics ( 小児歯科講座教授 )



Prof. R. Mendis Professor of Oral Pathology, Department of Oral Pathology  
( 口腔病理学講座教授 )

Dr. A. J. Pitigaraarachchi Head, Department of Basic Sciences ( 基礎医学講座教授 )

Prof. N. A. de S. Amaratunga  
Professor of Oral Surgery, Head, Department of Oral  
Surgery ( 口腔外科学講座教授 )

その他

C. M. Madduma Bandara Vice-chancellor, University of Peradeniya ( 副学長 )

L. Dissanayake Registrar, University of Peradeniya ( 書記 )

M. K. S. Kumarage Bursar, University of Peradeniya ( 会計 )

Dr. C. S. M. Gunathlaka Director, General Hospital (Teaching), Peradeniya  
( 教育病院長 )

(2) 日本側関係者

1 ) 在スリ・ランカ日本国大使館

野口 晏男 特命全権大使

神谷 武 公使

新沼 敬 二等書記官

2 ) 大成建設

白波瀬力雄 所長

藤岡 健介 工事主任

鈴木 晴史 事務

3 ) マツダコンサルタンツ

穴戸 泰三 設計第二部取締役部長

渡邊 雅人

4 ) JICAスリ・ランカ事務所

狩野 良昭 所長

鈴木 秀幸 次長

稲見 純子 副参事

5 ) JICA専門家

渡辺比登志 医学研究所 (MRI) 単発派遣専門家

佐々木正子 看護教育プロジェクトリーダー

小林 繁郎 看護教育プロジェクト業務調整員

## 1 - 5 調査結果要約

### (1) 関係各省との協議

関係各省を表敬し、本調査団の目的につき説明し、今後の本プロジェクトに対する協力を依頼した。各省とも本プロジェクトに対して関心が高く、ミニッツ案についても事前に目を通しており、非常にスムーズに協議を行うことができた。各省より得られた回答は以下のとおりである。

#### 1) 大蔵省外国援助局

本プロジェクトはスリ・ランカの歯学教育の拡充のみならず、保健医療全体の改善につながる重要なものと認識しているため、ぜひとも実現していただきたい。また、高等教育省、保健省等、各関係機関の調整にも尽力したい。

#### 2) 大学評議会 (UGC) および高等教育省

本プロジェクトはペラデニア大学が実施の主体となるが、UGCおよび高等教育省も大学の管轄機関としてその実施には責任をもって取り組む所存である。また、本プロジェクトは日本がすでに実施している同大学への無償資金協力との連携を十分に考慮しつつ要請したものであることを強調したい。

#### 3) 保健省

本プロジェクトと保健省とのかかわりは強いので、高等教育省とも協力し、本プロジェクトを円滑に進めるべく日本側と密に連絡をとっていきたい。

### (2) ペラデニア大学歯学部との協議

同歯学部の17部門につき、各々の担当教授から本プロジェクトの具体的な要請内容につき説明を受け、一方、調査団からはわが国の技術協力のスキームおよび先方要請に対するとりあえずの技術的コメントを行った。先方からの要請は同歯学部全体として取りまとめたものではなく、17部門各々の要請をそのまま列挙したものであるため、調査団側より、今回の技術的コメントを踏まえ、わが国のプロジェクト方式技術協力のスキームのなかで協力可能な内容となるよう、改めて17部門間での調整が必要であることを指摘し、長期調査が行われるまでに要請の内容にプライオリティーづけをするなどして調整することを依頼した。

### (3) ミニッツ署名交換

上記の協議内容を踏まえ、13日、UGCにおいて苗村団長とスリ・ランカ側 (ピーリス高等教育省事務次官、ティラカラトゥナUGC委員長、バンダラペラデニア大学副学長、ディサナヤケ保健省事務次官、パッサペルマ大蔵省外国援助局副官) との間でミニッツに署名を行った。ミニッツで確認された主な内容・事項は次のとおりである。

1) プロジェクトの上位目標

口腔疾患全般の予防、診断、治療に対応できる歯科医師がペラデニア大学歯学部で継続的に養成される。

2) プロジェクトの目的

ペラデニア大学歯学部の教育スタッフによって、近代的で国際的に標準化された歯科医師養成のための卒前教育システムが、無償資金協力によって整備された施設、機器を用いて自立的に運営される。

3) プロジェクトの活動内容

歯学教育にかかる教授・訓練法の指導(7講座17部門)

施設、機材の有効活用についての指導

卒前教育に直結した予防医学、基礎医学、臨床医学の技術指導

卒前教育に直結した研究者・教育者の能力開発のための指導

4) プロジェクトのカウンターパート

ペラデニア大学

5) プロジェクトの協力期間

討議議事録(Record of Discussions: R/D)に記載された開始日から5年間

6) 日本側の投入

専門家派遣、研修員受入れ、機材供与、ほか

7) スリ・ランカ側投入

プロジェクト運営委員会の配置、カウンターパートの配置、プロジェクト運営費の確保、ほか

8) 合同委員会の設置

R/Dに基づく年次計画の策定、進捗の管理、活動のレビュー・評価、課題・問題点についての協議等を行うため、以下のメンバーによる合同委員会を設置する。

スリ・ランカ側

プロジェクト運営委員会のメンバー

日本側

JICA専門家、JICAスリ・ランカ事務所長、在スリ・ランカ日本大使館

## 2 . 長期調査員派遣

### 2 - 1 調査員派遣の目的

事前調査により、協力の基本的枠組みについて合意を形成したが、この事前調査を補完し、具体的な協力内容や協力実施のスケジュール等をさらに詳細に策定するために、長期調査員を派遣し、専門分野に明るい人材を派遣することにより、R/D締結に向けての継続的な調査を行った。

### 2 - 2 調査員の構成および派遣期間

| 氏名    | 所属                     | 派遣期間                  |
|-------|------------------------|-----------------------|
| 半田祐二郎 | JICA国際協力客員専門員          | 1997年5月13日～1997年6月19日 |
| 橋本 弘一 | 日本歯科大学歯科理工学教室客員教授      | 1997年5月13日～1997年6月2日  |
| 田上 順次 | 東京医科歯科大学歯学部歯科保存学第一講座教授 | 1997年5月20日～1997年6月2日  |

### 2 - 3 調査結果

本長期調査は、プロジェクトサイクルマネジメント（PCM）手法に基づいて実施され、長期調査員とペラデニア大学歯学部関係者によりPCMワークショップを開催し、プロジェクトデザインマトリックス（PDM）および投入計画の詳細について合意した。

なお、以下の長期調査報告（別添1）は、スリ・ランカ側と共同で作成された英文報告書（附属資料）より翻訳したものである。



ペラデニヤ大学歯学教育プロジェクト

プロジェクト方式技術協力

長期調査報告書

1997年5月15日～6月18日

編集：半田祐二郎， Ajith W. Ranasinghe

この研究は以下の研究員により行われました。

ペラデニヤ大学歯学部グループ  
(スリランカ)

|                            |            |
|----------------------------|------------|
| Prof. N.A.de S. Amaratunga | (口腔外科学)    |
| Prof. A.N.I. Ekanayaka     | (歯科 公衆衛生学) |
| Prof. B.R.R.N. Mendis      | (口腔病理学)    |
| Dr.A.J.Pitigala Arachchi   | (口腔診断学)    |
| Dr. R.L. Wijeyeweera       | (小児歯科学)    |

JICA 研究チーム

|   |                  |
|---|------------------|
| Dr. Y.Handa (保健医療人材開発、JICA 国際協力総合研修所専門員室) |                  |
| Prof. K.Hashimoto                         | (日本歯科大学、歯科理工学)   |
| Prof. J.Tagami                            | (東京医科歯科大学、保存歯科学) |

学部長室事務局  
立案 および 企画

|                      |         |
|----------------------|---------|
| Menaka Silva         | (学部長室)  |
| Dr. J.U. Weerasinghe | (口腔外科学) |
| Tissa Wijeratne      | (学部長室)  |
| Padmini Wijeratne    | (学部長室)  |
| D.G.Wijeratna        | (学部長室)  |

名前はアルファベット順となっています。



## 目次

### 1. 序章

1.1 無償資金協力プロジェクトの背景

1.2 プロジェクト方式技術協力の必要性（PTCA）

1.3 技術協力予備期間における6週間の長期調査の定義と意義

### 2. 方法

2.1 PCM手法によるワークショップの立案

2.2 訓練目標およびプログラム開発についての集中グループ討論



### 3. 結果

#### 3.1 PTCAのプロジェクトデザインマトリックス

#### 3.2 能力開発のための歯学部における18学科の訓練ニーズの検討

#### 3.3 訓練プログラムの開発

##### 3.3.1 訓練プログラムの計画方法

##### 3.3.2 歯学部 専攻科目の概略

##### 3.3.3 機能的運営のための学科編成

##### 3.3.4 歯学部教育プログラムのフェイジングおよび優先順位

##### 3.3.5 訓練プログラム

##### 3.3.6 計画立案のロジスティックス

##### 3.3.7 教育用必要機材計画の策定

##### 3.3.8 新歯学部および病院の運営法に関する評価

### 4. 概要と結論

### 5. 参照

### 6. 付録

### 7. 略語

## 1. 序章

### 1.1 無償資金協力プロジェクトの背景

日本政府による無償資金協力プロジェクトはペラデニヤ大学歯学部の内容の向上のため現在実施されている。本プロジェクトはペラデニヤ総合病院に隣接した立地条件のよりよい場所に、全く新しく施設を建設し、また歯学教育、医療サービスおよび関連する研究活動のための最新設備を供給する。本プロジェクトは1996年5月のスリランカ、日本両政府の覚え書きの交換 (E/N)に従い、1996年10月に開始され、1998年3月~4月に完了予定となっている。

本大学歯学部がスリランカ唯一の歯科医師育成機関であり、また過去43年間その教育を一手に担ってきたことに基づき、このプロジェクトの必要性が検討され確認された。本大学歯学部は卒前、卒後教育や直接患者への医療サービス等、重要な役割を占めており、スリランカにおける口腔保健の向上に大きく関与する立場にある。

スリランカにおける口腔疾患のパターンとしてはスリランカで最も多い悪性腫瘍である口腔癌の発生率が高いことや、その他の一般的な口腔疾患の罹患率も比較的に高いことに特徴がみられる。次世代において、このような疾患の効果的な治療と予防に必要とされるのは適切な人材開発である。この点からも本歯学部は他にはない責任を負っていることになる。

残念ながら本学部の基礎設備は、区体（建物）も機材も老朽化し、旧式のものも多く、適切な状態ではない。教育や近代歯科医学に必要な診察室、手術室、病棟や研究室等の設備は備わっていない。そのため、教育、医療サービス、研究の水準に当然問題が残ってくる。

現在これらの不足、不備をなくし、国際的な水準の歯科医師や歯科専門家を育成することのできる近代的な歯学部をスリランカに確保する目的でこの無償資金協力プロジェクトは実施されている。

## 1.2 プロジェクト方式技術協力の必要性 (PTCP)

無償資金協力プロジェクトの背景のもと、前章で指摘されているように、プロジェクト方式技術協力は主に二つの理由から必要とされている。まず第一に無償資金協力は機材や区体関連の不備に関してのみ行われてきた。しかし、最新設備を含む区体を適切に利用していく能力の不足は長期的にみるとプロジェクトの継続を危うくするのではとスタッフは感じていた。この能力不足を克服するため、プロジェクト方式技術協力 (PTCA) は日本の歯学教育関係者により構成された長期調査団と本歯学部のスタッフによって参加型の計画がなされた。

この計画を立案する際、歯学部の教育と医療サービスの必要性とともにこの二つの重要な機能に直接関連した研究活動の必要性も考慮された。

第2に教育、臨床研究に関連したトレーニングプログラムや適切な規模の研究に必要な機器は慎重に検討され、本プロジェクトのトレーニングプログラムのために投入機材として要請された。

このプロジェクト方式技術協力を計画するにあたり、PCM手法が適用された。本プロジェクト (プロ技) においては本手法の三つの要素、すなわち参加型の計画手法、審査、モニタリング/評価を統合してプロジェクト全体の計画を策定した。(付1、参照) 同様の方法がこの無償資金協力プロジェクトの立案にも適用されており、このプロジェクトデザインマトリックスは付録2の表にまとめてある。詳細に関しては、参照リストにある文書を参照されたい。

### 1-3 技術協力の準備期間における6週間の長期調査の定義と位置付け

#### 1.3.1 長期調査の定義

本プロジェクトの計画においては長期調査とは人材の能力開発のために様々な”トレーニングプログラムの集合体であるPTCAの立案過程”と定義されている。事前調査団は1997年1月に歯学部を訪問した。その後、本調査は1997年5月16日から6月18日、参加型計画手法により実施された。

### 1.3.2 長期調査の位置付け

長期調査は単に情報収集のためだけの活動ではなく、人材開発に焦点をあわせたプロジェクトを計画する機会でもある。また、本プロジェクト（プロ技）が無償資金協力により供給された設備を含め、区体、設備、機材等良好な状態で長期維持管理に貢献できるよう計画を配慮した。

## 2. 設計法

### 2.1 PCM手法によるワークショップの設計

#### 2.1.1 参加者（アルファベット順）

##### コアグループ

Prof.N.A.de S.Amaratunga (口腔外科)  
Prof.A.N.I. Ekanayaka (歯科公衆衛生学)  
Prof. B.R.R.N.Mendis (口腔病理)  
Dr.A.J.Pitigala Arachchi (生理学)  
Dr. Ajith W. Ranasinghe (口腔内科学)  
Dr.R.L.Wijeyeweera (小児歯科)

##### 各学科代表者

Dr.E.A.P.D.Amaratunga (口腔病理、一般病理)  
Dr.T.Anandamoorthy (補綴歯科学)  
Dr. A.Chandrasekera (歯周病学)  
Dr.S.M.X.Corea (薬理学)  
Dr.(Ms) S.P.N.P.Nagaratne (矯正歯科学)  
Dr. P.Samaraweera (解剖学、歯科解剖学)  
Dr.M.A.M.Sitheequ (口腔内科学, 口腔、顎顔面放射線学)  
Dr.J.U.Weerasinghe (口腔外科)  
Dr. W.R.Wimalasiri (生化学)

##### 日本側調査チーム

Dr. Y. HANDA (保健医療人材開発/JICA 国際協力総合研修所専門員室)  
Prof. K. Hashimoto (歯科理工学 / 日本歯科大学)  
Prof. J.Tagami (保存歯科学 / 東京医科歯科大学)

### 2.1.2 ワークショップの上位目標と目的

開始時にワークショップの参加者はその上位目標と目的を以下の通りとすることについての合意形成がなされた。

上位目標：JICA本部における国内委員会が日本人専門家の派遣とスリランカ人研修生の日本の機関での受け入れの計画についての適切な判断をする。

目的： 5年間のプロジェクト方式技術協力で実施されるトレーニングプログラムの計画が作られる。

### 2.1.3 ワークショップの日程

期間：1997年5月13日～1997年6月18日

| 月日           | 午前（9：00-12：00）                              | 午後（1：30-4-30）           |
|--------------|---|-------------------------|
| 1997 5/16（金） | 議題の最終決定                                     | 建設予定地訪問                 |
| 1997 5/17（土） | --  | --                      |
| 1997 5/18（日） | --  | --                      |
| 1997 5/19（月） | PCMワークショップ                                  | 参加者分析、問題分析              |
| 1997 5/20（火） | 目的分析  | プロジェクトの選択               |
| 1997 5/21（水） | --  | --                      |
| 1997 5/22（木） | --  | --                      |
| 1997 5/23（金） | PDM (Narrative summary)                     | PDM (Narrative summary) |
| 1997 5/24（土） | --  | --                      |
| 1997 5/25（日） | --  | --                      |
| 1997 5/26（月） | トレーニングプログラムの立案<br>歯科補綴学、歯科矯正学、<br>小児歯科、歯周病学 | Cont.                   |
| 1997 5/27（火） | トレーニングプログラムの立案<br>基礎科学、一般および口腔病理<br>微生物学    | Cont.                   |
| 1997 5/28（水） | トレーニングプログラムの立案<br>保存歯科学、薬理学<br>口腔内科、放射線学    | Cont.                   |

| 月日                 | 午前 (9:00-12:00)                            | 午後 (1:30-4:30)       |
|--------------------|--|----------------------|
| 1997 5/29 (木)      | トレーニングプログラムの立案<br>歯科公衆衛生、口腔外科<br>学部長室      | 橋本、田上両教授<br>病院構内訪問   |
| 1997 5/30 (金)      | トレーニングプログラムの立案<br>トレーニングプログラム期間編成          |                      |
| 1997 5/31 (土)      | --   | --                   |
| 1997 6/1 (日)       | --   | --                   |
| 1997 6/2 (月)       | Dr.半田JICA 事務所訪問                            |                      |
| 1997 6/3 (火)       | 基礎科学                                       |                      |
| 1997 6/4 (水)       | PDM<br>投入とデータ入力先                           | 病理、微生物学<br>薬理学 (再検討) |
| 1997 6/5 (木)       | 口腔外科、口腔診断学、<br>口腔病理、学部長室<br>(再検討)          | PDM<br>発表と検討         |
| 1997 6/6 (金)<br>運営 | ディスカッション (設備)                              | 新歯学部および病院            |
| 1997 6/7 (土)       | --   | --                   |
| 1997 6/8 (日)       | --   | --                   |
| 1997 6/9 (月)       | 報告書作成                                      | Cont.                |
| 1997 6/10 (火)      | 第1回草案審議                                    | Cont.                |
| 1997 6/11 (水)      | トレーニングプログラム用<br>図表作成                       | Cont.                |
| 1997 6/12 (木)      | 報告書作成、仕上げ                                  | Cont.                |
| 1997 6/13 (金)      | Discussion (設備について)                        | 学部委員会へ<br>成果発表       |
| 1997 6/14 (土)      | --   | --                   |
| 1997 6/15 (日)      | --   | --                   |
| 1997 6/16 (月)      | 報告書作成                                      | Cont.                |
| 1997 6/17 (火)      | 報告書作成                                      | Cont.                |
| 1997 6/18 (水)      | ワークショップ成果についての発表<br>JICA コロンボ事務所にて 10:30am |                      |

#### 2.1.4 開催場所

##### 歯学部図書閲覧室 (35m<sup>2</sup>)

この部屋には2枚の大きな壁があり、matrix paper (180×280cm) を提示することができるようになっている。このmatrix paper とカードシステム (ポイント メモ 7×20cm, Kindai-Shji, 東京) を使用してワークショップは行われた。参加者の提案はカードに記入し、matrix paperに貼り付けていった。

#### 2.2 トレーニング目標とカリキュラム開発についての「集中グループディスカッション」

トレーニング目標とトレーニングプログラムの候補はすべて集中グループディスカッションの形で日本側調査団のメンバー、歯学部のコアグループと、それぞれのトレーニングプログラムを担当する各教室、各科の代表者が若手教官とともに話し合った。(教官リストは付録Ⅷの通り)

### 3. 結果

#### 3.1 プロジェクト方式技術協力のPDM

対象：ペラデニヤ大学 歯学部

PDMは添付の通り (付録Ⅰ)

#### 3.2 歯学部における人材の育成のための18学科のトレーニング目標の検討

18学科のトレーニングのニーズが検討された。トレーニングプログラムを担当する各講座、学科の代表者から58のトレーニング目標が提出された。調査団は慎重にそれらの整合性を分析した。この情報はnarrative summary の形 (目標/目的/成果) で目的志向型のロジックを用いて報告された。(付録Ⅳ参照) 同時にその訓練の妥当性、必要性、プライオリティ、実行可能性、カウンターパートの責任分担および説明責任についても検討が行われた。2名の日本人専門家が指導者および日本の受け入れ機関について基本的な情報を報告した。

#### 3.3 訓練目標達成のためのトレーニングプログラム開発

##### 3.3.1 訓練プログラムデザイン (付録Ⅵ参照)

各学科のトレーニングニーズはPCMの基本原則 (目標/目的/成果) を用いて作成された。

### 3.3.2 歯学部各学科の概略

訓練のために策定された各学科とその簡単な解説は下記の通り。

#### CLINICAL DISCIPLINES

|           |                                |
|-----------|--------------------------------|
| 歯科保存学     | 歯の修復およびリハビリ                    |
| 歯科補綴学     | 喪失歯および顎顔面の補綴                   |
| 歯周病学      | 歯周疾患の治療および歯肉の保健                |
| 歯科矯正学     | 位置異常、配列異常の矯正、顎変形の矯正            |
| 小児歯科学     | 小児の歯科、口腔疾患および顔面、歯牙発生の発達        |
| 口腔外科学     | 癌等の歯科口腔疾患や口唇口蓋裂等の顔面奇形に対する外科的処置 |
| 口腔内科学     | 顔面痛、粘膜疾患等の歯科口腔疾患の非外科的処置        |
| 口腔顎顔面放射線学 | 診断用X線による検査学                    |
| 口腔病理学     | 歯科、口腔疾患の顕微鏡的診断                 |
| 歯科公衆衛生学   | 個人社会レベルでの口腔保健の向上と予防            |



## PARA CLINICAL DISCIPLINES

- 一般病理学 疾病の過程の基礎知識
- 微生物学 微生物および病原微生物について
- 薬理学 薬剤およびその作用機序と適応症

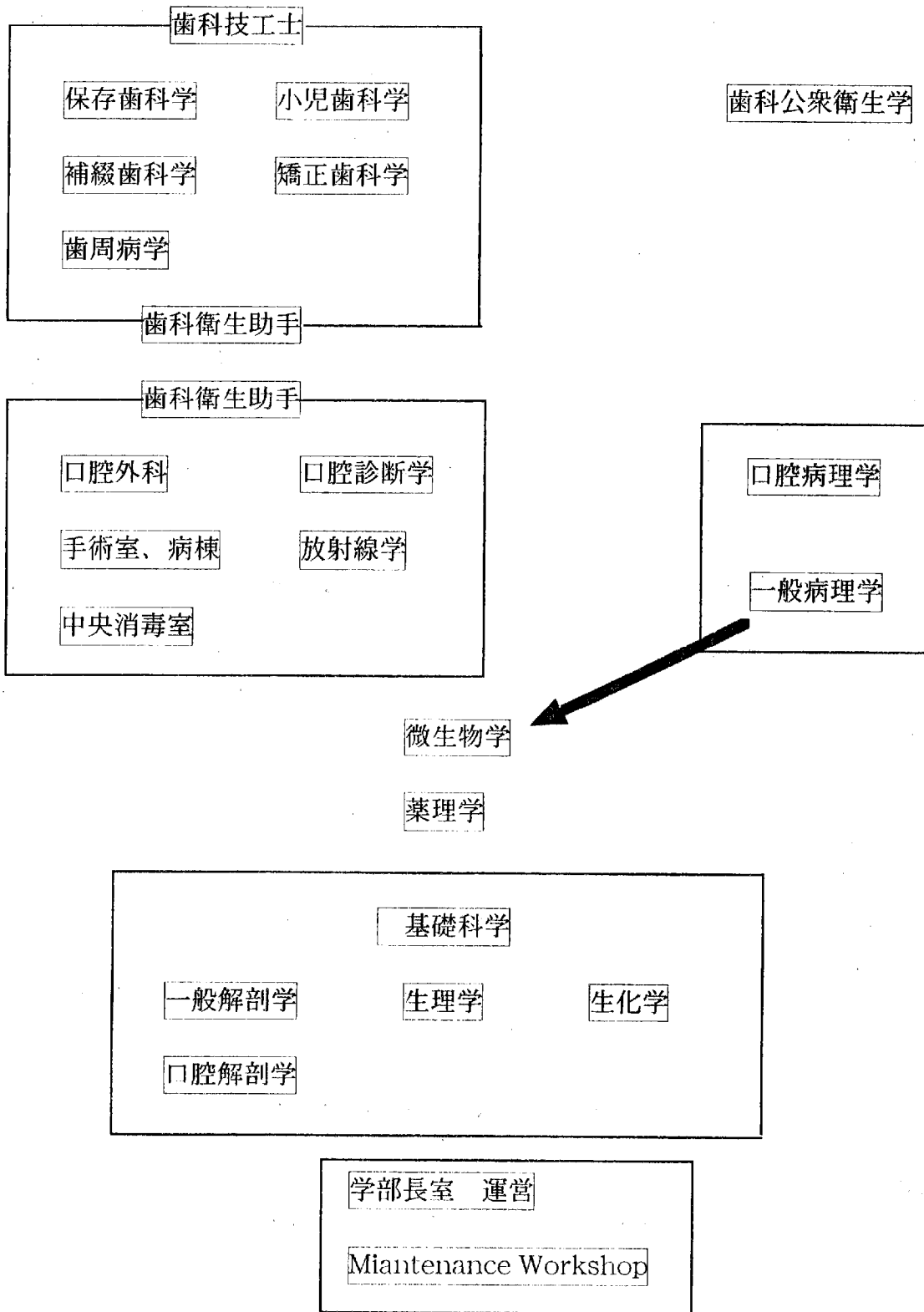
## PRE CLINICAL DISCIPLINES

- 生化学 生体内の生化学変化の基礎知識
- 解剖学 肉眼的および顕微鏡的生体内構造についての学習
- 歯科解剖学 肉眼的および顕微鏡的歯科、歯周組織の構造について

### 3.3.3 機能的運営のための学科グルーピング

研究、教育、医療サービスを行う本学部の特徴を考慮し、いくつかの学科をグループにまとめた。グループ編成はチャート I に示されている。(付録 III 参照)

機能的運営のための学科編成



歯科保存学、歯科補綴学、歯周病学は一つのグループにまとめられ、小児歯科、矯正歯科は別のグループに編成された。これらの両グループは大きなひとつのグループにまとめられ、歯科技工室や診療室では前者は歯科技工士に後者はデンタルナースの活動に関連があることを考慮した。歯科公衆衛生学は口腔保健の向上や疾病の予防を取り扱うため単独のグループとした。

口腔外科、口腔内科学、放射線学のような病院機能との関連のある学科は機能的に一つにまとめた。

微生物、薬理学、一般病理はPARA CLINICALとしたが、一般病理は実践上、口腔病理と同じグループとした。

PRE CLINICALである一般解剖学、口腔解剖学、生理学、生化学は基礎科学のグループとした。

この計画において、学部長室とその管轄下であるメンテナンスワークショップは同じグループとした。

#### 3.3.4 歯学部訓練プログラムのフェーズと優先順位

次の問題は提案された訓練プログラムのフェーズおよび優先順位を設定する基準である。すべての訓練が5年間の期間にフェーズ別を実施されるように計画されている。

以下は3つのフェーズの基準である。

- |                            |   |
|----------------------------|---|
| フェーズ1<br>に実施される<br>訓練 (2年) | 現在、訓練の欠如している分野。<br>新しい部門、科目等が1998年に設立される。<br><br>教育や医療サービスに関する分野や学科の中で最も発展が遅い分野に高い優先順位がつけられた。 |
| フェーズ2<br>に実施される<br>訓練 (2年) | 現在、専門技術がいくらか利用できる分野。<br>新しい部門、科目等が1998年に設立される。<br><br>この段階の訓練目的は教育および医療サービスの強化である。            |

フェーズ3  
に実施される  
訓練(1年)

現在、専門的技術等が確保できている分野。  
現在の能力をさらに向上させるため1998年以降、新しい学部  
で新しい施設、機材が利用可能となる。

既存の専門技術が活用できるので、教育や医療サービスに直  
結した訓練高度な訓練や研究活動への対応が考えられた。

### 3.3.5 訓練プログラム

ペラデニヤで実施予定の33プログラム、日本で25プログラムの計58の訓練プロ  
グラムが計画された。訓練プログラムの詳細(訓練プログラム表)は付録Vに  
示す通りである。各トレーニングの効果、効率およびインパクトが慎重に分析  
され、各訓練プログラムが作成された。

### 3.3.6 訓練プログラム立案のためのロジスティックス

5年の期間中、訓練学科のグルーピング、各訓練プログラムのフェーズ分け、  
また、それらの優先順位は慎重に決定された。(付録VI VII参照)

### 3.3.7 訓練用機材計画の策定

歯学部ほとんどの講座(department)、部門(division)で検討した結果、  
提出した訓練プログラムの実現のために機材が必要であることがわかった。こ  
れらの機材費について、必要機材計画を策定する必要がある。

優先順位をつける基準として、必要されたい機材を以下のように 最重要、重要、希望機材の3つのカテゴリーに分類した。

|    | 最重要機材                                  | 重要機材                        | 希望機材                                     |
|----|--|-----------------------------|--|
| 基準 | 1998年のプロジェクト開始に不可欠な機材。教育、医療サービスに必須である。 | 多様に使用される機材。教育、医療サービスに必須である。 | 研究用設備。訓練プログラムに直接関連し、教育医療サービスにインパクトのあるもの。 |
| 例  | 咬合器                                    | Digitizer,プロッター             | フロリダprobe                                |

( 全品目リストは 付録Ⅲ 参照 )

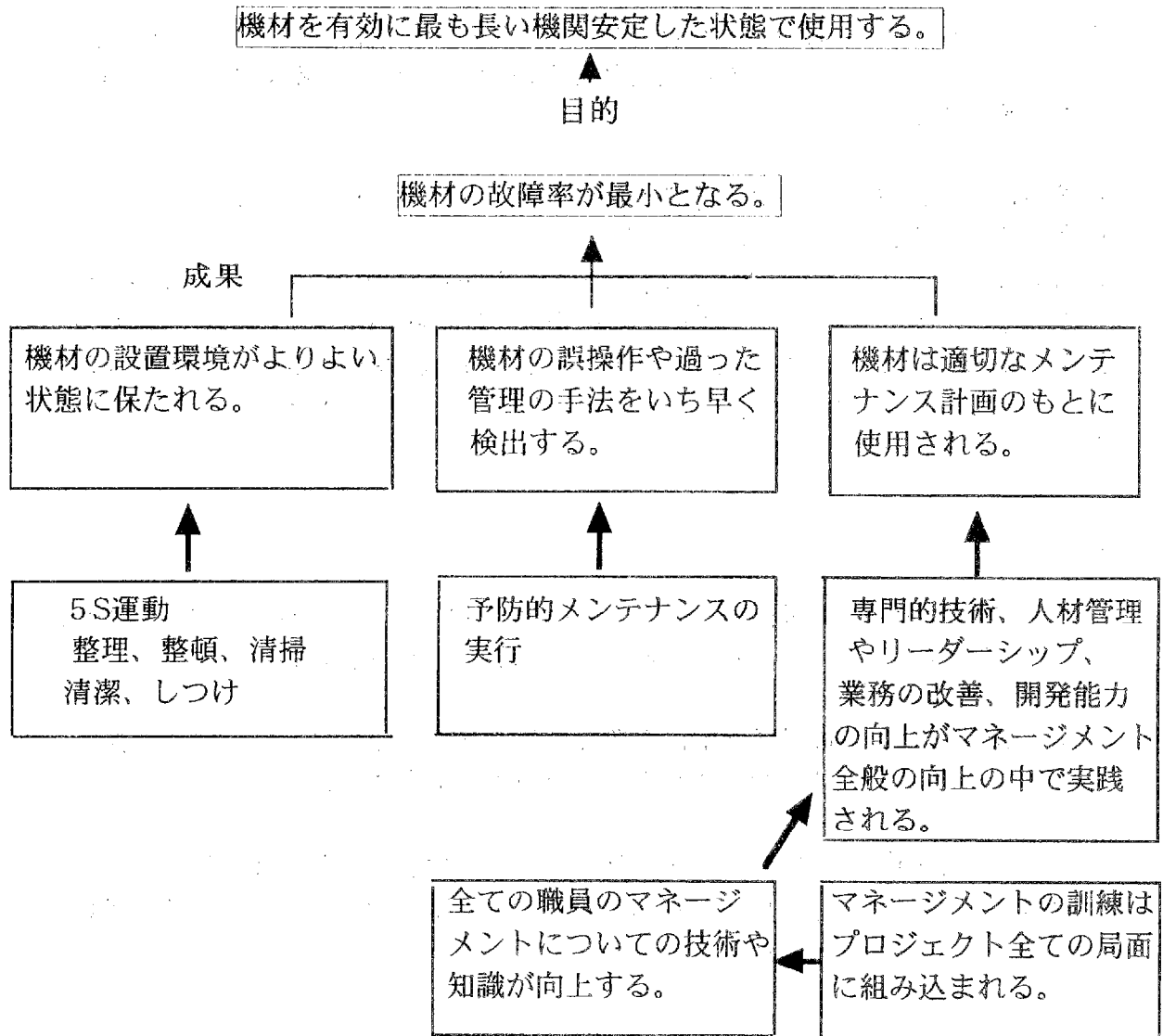
### 3.3.8 新歯学部および病院の運営法に関する評価

以下の点が本プロジェクトの訓練分野としてワークショップで確認された。

- 01 管理運営能力：歯学部および病院の教官、技術職員の専門的技術、人材管理やリーダーシップ、業務改善や開発能力
- 02 歯学部、病院での5S運動（#）の実施
  - # 教育、臨床、研究において高い成果を確保するためのサービスの質の管理を徹底するための運動の一環である。5sとは整理、整頓、清潔、清掃、躰けを意味する。
- 03 機材の予防的メンテナンスの実行
- 04 歯学部教官、技術職員の中での区体（建物）の管理に関する意識を高めること

機材管理方法のobjective tree

上位目標



## 4. 要約と結論

### 要約

本プロジェクト（プロ技）の計画にはプロジェクトデザインマトリックスを適用した。本プロジェクトの上位目標と目的が設定され、成果を確保するのに必要な活動が策定された。

各講座および各部門はPDMに記載された活動に基づいて必要な訓練プログラムを提案するよう調査団側より求められた。

各訓練プログラムには上位目標、目的、および目的達成のためのいくつかの成果を設定した。指導者、研修生、および訓練場所、必要機材についても案を策定した。計58の訓練プログラムは5年間の期間に実施される必要があるため、優先順位をつけ、3つのグループに分類し、フェーズⅠ、Ⅱ、Ⅲと名付けた。

### 結論

1. PDMは目的志向型であり、58の個別プログラムから成るこの大型訓練プロジェクトにとって有用な計画手法であることが立証された。
2. 歯学部および歯学部強化に必要な分野の訓練についてのニーズを調査し、このニーズに応えるための適切なプログラムが開発された。
3. この計画策定のプロセスをふりかえると、歯学部および日本ドナーは種々の訓練プログラムについての案はどれも十分に訓練計画としての条件を満足するものであったと言える。

## 5. 参照

1. Report of Preliminary Survey for Project Type Technical Co-operation Assistance-7th January 1997 compiled by the Faculty of Dental Sciences.
2. PCM - Management Tool For Development Assistance, Foundation for Advanced Studies on International Development, Tokyo (1995)
3. Guidelines for project progress reviews GTZ Publication, Division 012, Quality Assurance, Organization (1989).
4. Methods and instruments for project planning and implementation GTZ publication.
5. Project Type Technical Co-operation -JICA Publication.
6. HRD Through In-House Training, PL Rao, Indian Society for Training and Development (1996).
7. Maintenance and Spare Parts Management, P.Gopalakrishman & A.K. Banerji, Prentice-Hall of India Pvt. Ltd, New Delhi (1991).
8. GTZ Managing On-site Project Implementation, A Guideline, (1989).
9. Clinical Management for Health Centres and Dispensaries Edited by P.L.Petit, N. Janmohamed, C.H.Wood, F.J.Bennet AMREF, Nairobi (1987).
10. Assessing District Health Needs, Services and Systems A.A.Kielmann, K.Janovsky, H.Annett, AMREF, Nairobi (1991).
11. Continuing Education for Health Workers, Training Department, AMREF, Nairobi (1983).
12. Guidelines for the Management of Hospital Out-patient Services J.Maneno, P.Schluter, A.C.Sjoerdsma, L.C.Vogel, F.Savage King, AMREF, Nairobi (1982).
13. Health Service Management, Learning Materials, Volume I Edited by S.Kanani, J.Maneno, P.Schluter, AMREF, Nairobi,(1984).
14. A Practical Laboratory Manual for Health Centres in Eastern Africa, J.Carter, O.Lema, AMREF, Nairobi (1994).



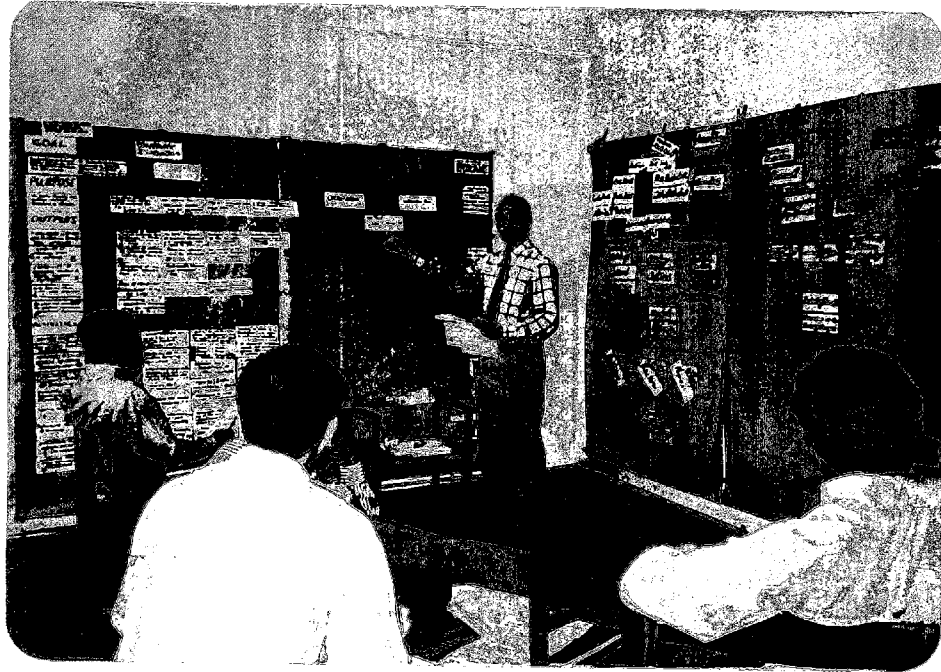
## 6. 付録

- I. プロジェクトデザインマトリックス (技術協力)
- II. プロジェクトデザインマトリックス (無償資金協力)
- III. 機能的運営のための学科編成
- IV. 訓練プログラムの策定方法
- V. 訓練プログラムのフェーズ分け
- VI. 訓練プログラム一覧表
- VII. 訓練プログラム用機材リスト
- VIII. 歯学部教官リスト

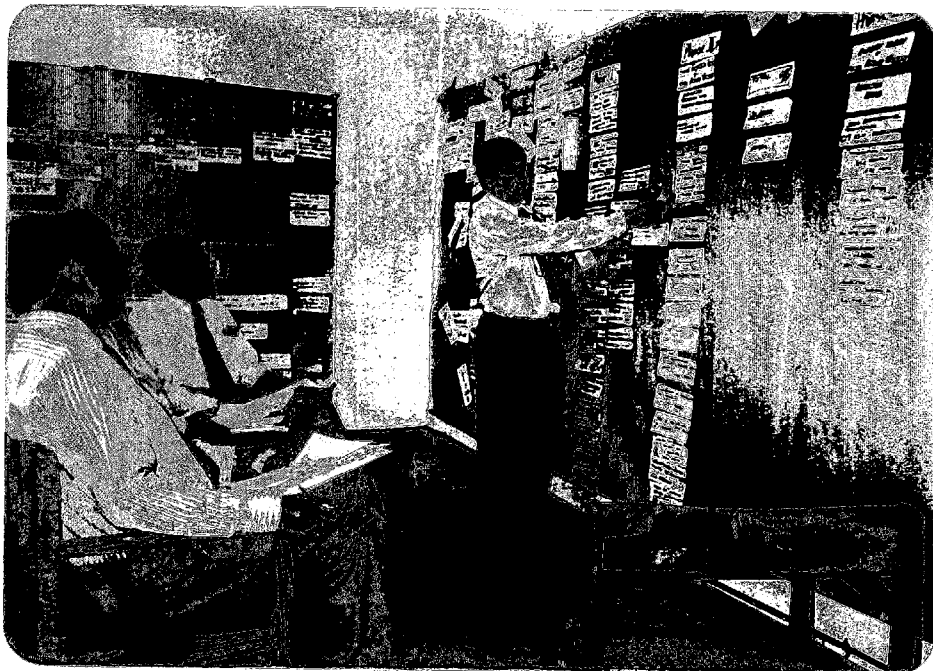
## 7. 略語

- HRD: 人材開発  
PCM: プロジェクトサイクルマネジメント  
PDM: プロジェクトデザインマトリックス  
PCTA: プロジェクト方式技術協力

## ワークショップの進行



B.R.R.N.Mendis教授、訓練プログラムのフェイジングの原則を論ずる。



Dr.R.L.Wijeyeweera、訓練プログラムの優先順位の原理を説明する。



# 付 録 Ⅰ



プロジェクトデザインマトリックス (PDM)

プロジェクト名: ベラデニヤ大学歯学教育プロジェクト

実施期間: 1998年1月～2002年12月

| プロジェクト要約   | 指 標   | データ入力先  | 外 部 条 件   |
|--|---|---|---|
| 上位目標<br>歯学部における歯学訓練、サービス、研究活動の継続的な発展を推進する。   | スリランカ人卒業生MS/MPhil 学位取得者の増加 5%(1997)→5%(2002)に増加する。<br>4 hands dentistryを行う歯学部卒業生数の増加 X名(1997)→Y名 (2002)<br>卒後研究セミナーの増加 X(1997)→Y(2002)<br>歯学部による地域教育数の増加 X(1997)→Y(2002)  | 学位の記録<br>(ベラデニヤ大学本部)<br>歯学部によるアンケート<br>歯学部による活動記録             | スリランカ側は新歯学部および病院を最高の医療訓練機関と認識する。                                    |
| 目的<br>歯学部が限られた条件下で最高水準の機能を達成する。  | 学生の試験成績結果、合格率が3%増加し10%となる。<br>ウェイティングリスト助運お患者数の減少 X(1997)→Y(2002)<br>歯学部で活動する5Sグループ数の増加 2(1997)→18(2002)  | 歯学部記録<br>歯学部活動記録<br>訓練活動は地方的に継続                               | 政府は歯学医師養成の重要性を継続して認識する。<br>患者負担額が適切に設定、適用される。<br>高等教育省が適切な資金供給を継続する |
| 成果<br>1. 教官の知識および技術の向上<br><br>2. 技術スタッフの能力向上<br><br>3. 看護婦および歯科看護婦の能力向上<br><br>4. 歯学部スタッフの管理運営能力の向上<br><br>5. 卒後教育プログラムを開発する能力を持つ。 | 1.1 加療患者数の増加 3000/年(1997)→100000/年(2002)<br>1.2 報告される総生検数の増加 1000/年(1997)→4000/年(2002)<br>1.3 スタッフからの発表数 倍増<br>1.4 歯学部スタッフにより書かれた教科書、マニュアル数の増加 3/年(1997)→18/年 (2002)<br>2.1 各科の技術成果50%増(2002)<br>3.1 院内感染の発生率の減少 X%(1997)→Y%(2002)<br>3.2 four-hand dentistryが1998年に保存、小児、口腔外科、補綴歯科で実施される。<br>4.1 顕微鏡の菌類汚染 10%以下<br>4.2 had piece headの1年後の故障率減少 100%(1997)→20%(2002)<br>4.3 スタッフの時間厳守、出勤率向上 X%(1997)→Y%(2002)<br>4.4 18全分野でメンテナンス記録の継続的管理の実施<br>5.1 卒後教育プログラム数の増加 X(1997)→4年(2002) | 歯学部記録<br><br>各診療科、部門の記録<br><br>病院記録<br><br>歯学部記録<br><br>歯学部記録 | 訓練を受けたスタッフが高い勤労意欲を示す。<br>熟練技術者が継続的に勤務する。                            |

|  |  |     |       |     |        |    |        |          |       |  |
|--|--|-----|-------|-----|--------|----|--------|----------|-------|--|
| <p><b>活 動</b></p> <p>1.1 各科の訓練不足の分野、技術を同定する。<br/>         1.2 各科の訓練ニーズを同定する。<br/>         1.3 学科の訓練ニーズの優先順位をつける。<br/>         1.4 研修生を決定する。<br/>         1.5 訓練方法を決定する。<br/>         1.6 効果的な訓練プログラムを開発する。<br/>         1.7 教官訓練プログラムを企画する。<br/>         1.8 訓練用機材、材料を設定する。</p> <p>2.1 技術者を持つ分野を同定する。<br/>         2.2 各分野の訓練ニーズを同定する。<br/>         2.3 技術訓練が必要な分野の優先順位をつける。<br/>         2.4 訓練に必要な機材、材料を設定する。<br/>         2.5 研修生を決定する。<br/>         2.6 訓練方法を決定する。<br/>         2.7 効果的な訓練プログラムを開発する。<br/>         2.8 技術スタッフの訓練プログラムを企画する。</p> <p>3.1 看護教育担当委員会を設立する。<br/>         3.2 特別看護活動のプロトコールを作成する。<br/>         3.3 看護活動プロトコールの評価/検討方法を計画する。<br/>         3.4 研修生を決定する。<br/>         3.5 訓練方法を決定する。<br/>         3.6 看護婦のための効果的な訓練プログラムを開発する。<br/>         3.7 看護スタッフの訓練プログラムを企画する。</p> | <p>4.1 歯学部が効率的に機能するために重要な運営能力のある分野を同定する。<br/>         4.2 各管理者の職務内容説明を設定する。<br/>         4.3 基本的運営能力を供給する。<br/>         4.4 運営訓練に関するワークショップを開催する。<br/>         4.5 全スタッフに対して運営概念の重要性を普及させる。<br/>         4.6 運営能力の検討、評価方法を計画する。</p> <p>5.1 継続教育に関する臨床医の措置を決定する。<br/>         5.2 一般歯科臨床医のための最新一般歯科コースを企画する。<br/>         5.3 臨床歯科医のための特定専門学科の短期コースを企画する。<br/>         5.4 専門医のための眷属教育プログラムを企画する。<br/>         5.5 臨床医のための訓練プログラムを企画する。<br/>         5.6 初級歯学部教官のための基礎歯科研究教育プログラムを企画する。<br/>         5.7 歯科助手のための継続教育プログラムを企画する。<br/>         5.8 歯科技工士のための継続教育プログラムを企画する。<br/>         5.9 研究室技術スタッフのための継続教育プログラムを企画する。<br/>         5.10 地域卒業生のための教育プログラムを計画する。</p> <p><b>投 入</b></p> <table border="0"> <tr> <td>日 本</td> <td>スリランカ</td> </tr> <tr> <td>専門家</td> <td>職員/研修生</td> </tr> <tr> <td>機材</td> <td>材料/消耗品</td> </tr> <tr> <td>日本における訓練</td> <td>施設維持費</td> </tr> </table> | 日 本 | スリランカ | 専門家 | 職員/研修生 | 機材 | 材料/消耗品 | 日本における訓練 | 施設維持費 | <p><b>外 部 条 件</b></p> <p>保健省は投入を継続する。</p> <p>訓練を受けたスタッフは歯学部継続して勤務する。</p> <p><b>前 提 条 件</b></p> <p>新歯学部/病院は日本政府無償資金協力により建設され、利用可能となる。</p> |
| 日 本  | スリランカ  |     |       |     |        |    |        |          |       |  |
| 専門家  | 職員/研修生   |     |       |     |        |    |        |          |       |  |
| 機材   | 材料/消耗品   |     |       |     |        |    |        |          |       |  |
| 日本における訓練   | 施設維持費  |     |       |     |        |    |        |          |       |  |

# 付 録 Ⅱ





| プロジェクト   | デザイン   | マトリックス  | (PDM - 1997)  |
|--|--|---|---|
| ペラデニヤ大学歯学教育向上のためのプロジェクト  |  |   |   |
| プロジェクト要約   | 指 標  | データ入力先  | 外部条件  |
| <b>上位目標</b><br>口腔疾患の予防、治療を向上させる。   | 1. 口腔疾患*の罹患率および治療の必要性を低下させる。<br>2. 2005年までに歯科医療の内容と供給を向上させる。<br>3. 2005年までに口腔外科医の雇用パターンが改良される。   | 1. 保健省、歯学部 of 疫学、臨床の記録<br>2. 保健省、歯学部の統計<br>3. 保健省人事報告   | 国民レベルで、予防状況を含む歯科医療の向上を確約する。   |
| <b>直接目的</b><br>歯学部における、歯学教育、医療サービスの質が向上する。   | 1998年の教育投入を向上させる。  | 1. 1999年歯学部のカリキュラム、臨床研究記録<br>2. 1999年の訓練、患者ケアの評価  | 優秀な学生が定期的に入学する。   |
| <b>成 果</b><br>1. 最新の適切な区体が供給される。(1.1-1.13)<br>2. 最新の適切な機材が供給される。(2.1-2.5)<br>3. 臨床研究、教育方法論のための設備を供給する。(3.1-3.4)**<br>4. 歯学部訓練スタッフ及び日本人専門家を増員する。(4.1-4.3)**<br>5. 継続訓練用設備を供給する。 | a) 講義、訓練用教室<br>2934m <sup>2</sup> (1994)→3299m <sup>2</sup> (1998)<br>b) 訓練スタッフ室<br>125m <sup>2</sup> (1994)→1054m <sup>2</sup> (1998)<br>a) 1研究グループ当たりの学生数<br>25人(1994)→5人(1998)<br>b) 顕微鏡、歯科用チェア1台<br>学生8人(1994)→学生1人(1998)<br>c) 病院外来、入院患者数<br>45000(1994)→105000(1999)<br>a) 研究成果が25%増加する。<br>b) 保存、補綴歯科患者数が増加する。1000('94)→2万人('98)<br>c) 組織病理学報告数が増加する。1000('94)→4000('98)<br>d) 総臨床例数が増加する。45000('94)→105000('98)<br>2005年までに訓練を受けた職員が25%増加する。<br>2005年までに継続教育が100%行われる。 | 区体の最終設計 (1998)<br><br>歯学部訓練、医療サービス活動記録<br><br>各講座の発表および歯学部の統計<br><br>歯学部職員個人情報<br><br>歯学部年間報告 | a) 大学により十分な安全と区体の建設が促進される。<br>b) 新施設により患者数が増加する<br><br>a) カリキュラムが改正される。<br>b) 臨床および研究施設が十分に活用される。<br><br>職員が継続して勤務する。<br><br>歯科外科医が継続教育を強く要望する。 |
| *口腔疾患-齲蝕、歯周病、口腔悪性腫瘍その他<br>**詳細は手渡し   | 投 入  |   | <b>前 提 条 件</b><br>歯学部、病院のプロジェクトの実施に対し、大学、保健省その他関連機関が協力する。   |

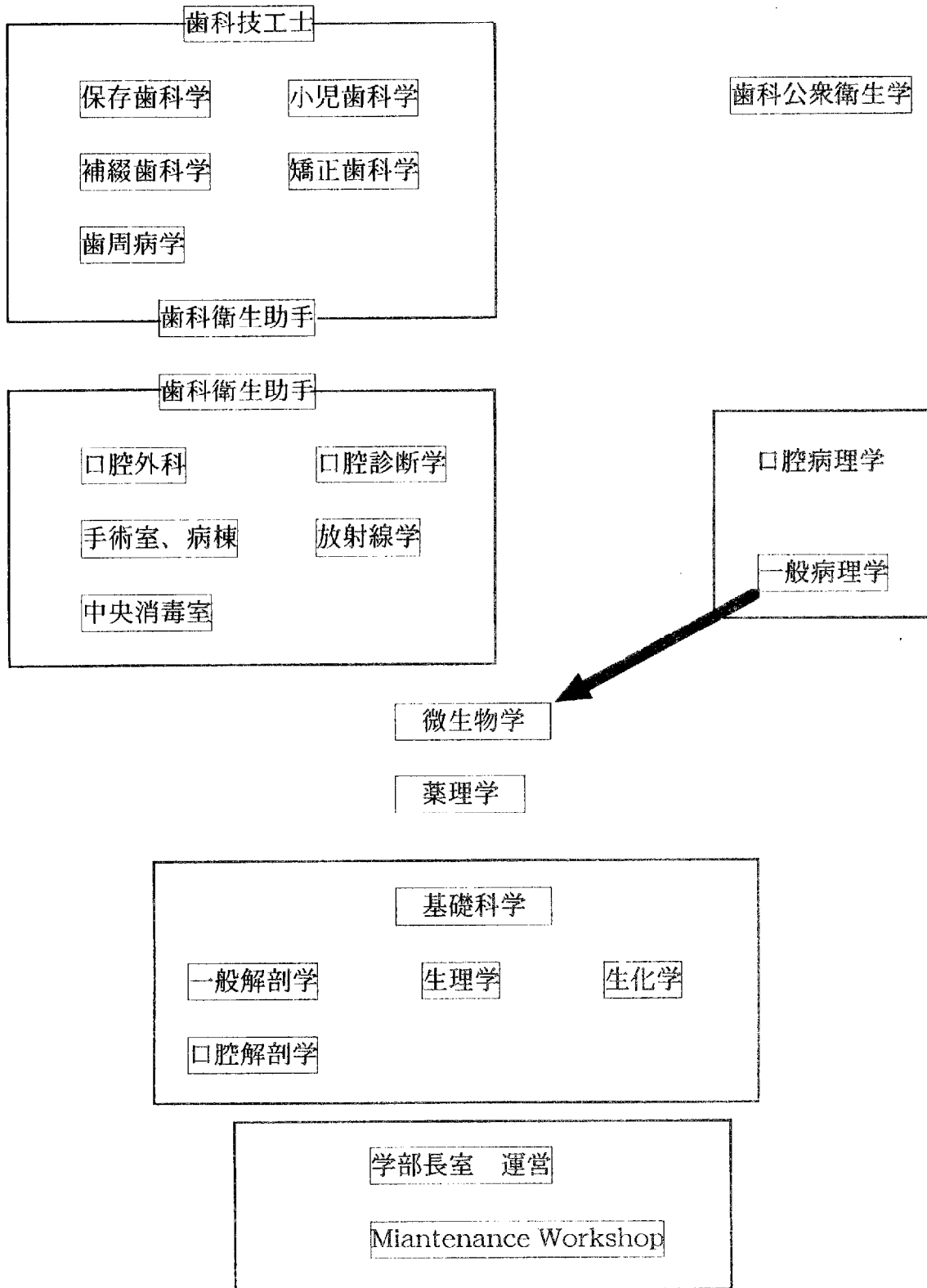


# 付 録 Ⅲ



付録 III

機能的運営のための学科編成



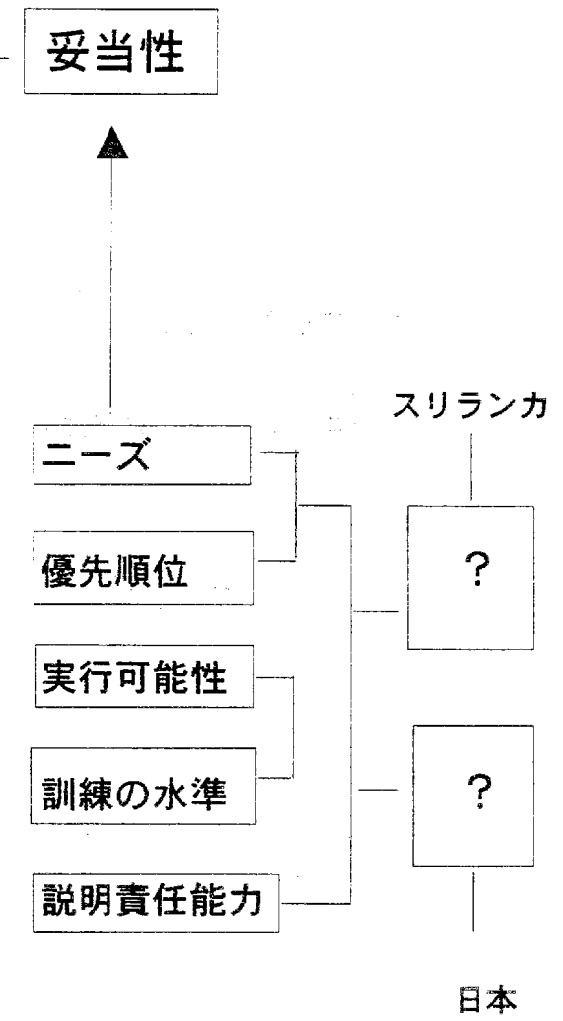
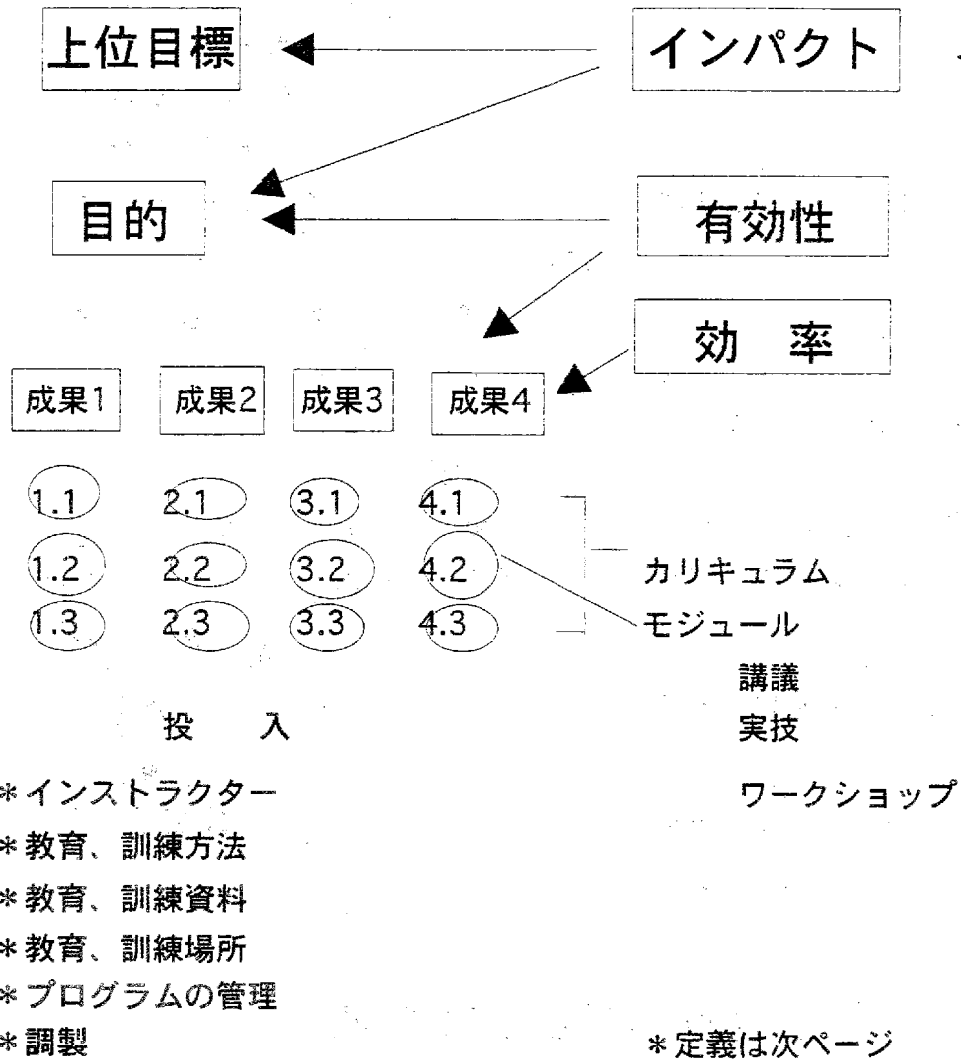


# 付 録 IV

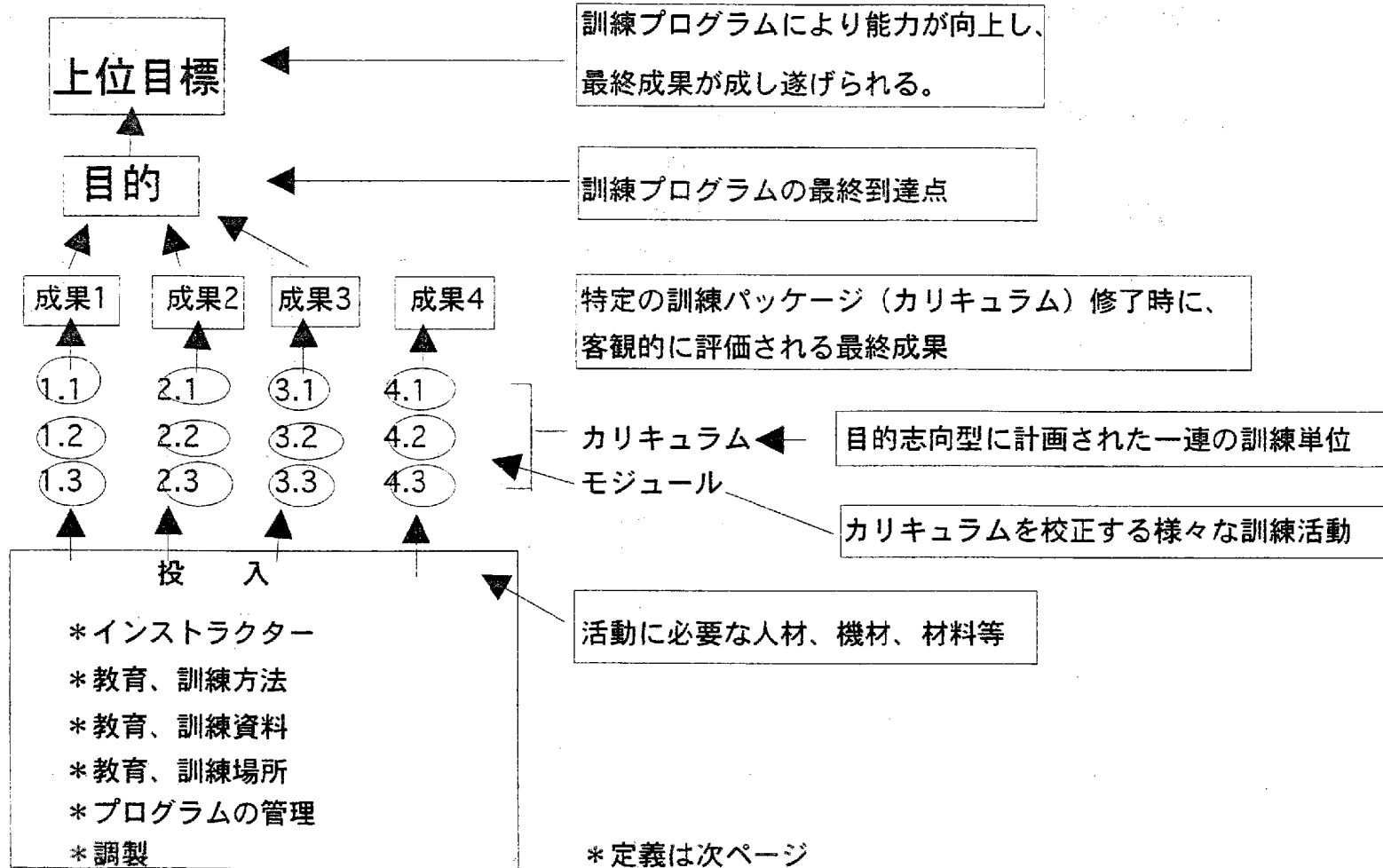




### 訓練プログラムの設計手法



# 訓練プログラムの設計手法



# 付 録 V



| 1997<br>歯科用機材管理<br>6ヶ月(Deans)日本<br>SL0-0~3,1997-2003DeansOff<br>歯学部、病院事務管理<br>(ス)5年 学部長室 | フェーズ1<br>現在不足している訓練 + 将来必要な新設備<br><br>訓練、サービスに関して最も有効な分野/学科を<br>考える。  |   | フェーズ2<br>現在の専門技術 + 将来の新設備<br><br>訓練、サービスの機能を強化する。     |   | フェーズ3<br>現在の専門家 + 将来の新設備<br><br>研究活動の基礎をつくる。            |                    |
|--|---|---|---|---|---|--------------------|
|  | 1998  | 1999  | 2000  | 2001  | 2002  |                    |
| スリランカへの<br>長期派遣日本専門家   | SL1-1-98-Rest,Prost<br>歯内治療学,Operative<br>Dentistry,歯科理工学<br>スリランカ1年(Operative<br>Dentistry)<br>顎顔面補綴、金属義歯<br>スリランカ1年(補綴) | SL8-1-99-Rest<br>保存歯科、歯内治療学<br>Operative Dentistry<br>歯科理工学<br>スリランカ1年、教官 | SL16-2-2000-Micro<br>口腔微生物学<br>スリランカ1年、微生物            | SL-22-2-2001-Physio.<br>生理学研究室訓練<br>スリランカ12ヶ月生理学  | SL28-3-2002.Med<br>粘膜疾患の治療<br>スリランカ12ヶ月口腔内科             |                    |
|  | SL2-1-98-Rest,Pros,Ortho<br>歯科技術<br>補綴、保存、歯科矯正学<br>スリランカ1年  | SL9-1-99-Prost.<br>インプラント、顎顔面<br>補綴、部分義歯<br>スリランカ1年、教官                    | SL17-2-2000-O.Path<br>免疫組織化学、診断<br>スリランカ12ヶ月<br>口腔病理学 | SL-23-01-Biochem<br>生化学カリキュラム<br>スリランカ12ヶ月<br>生化学 | SL-29-3-02-Rest<br>歯科用材料専門家<br>スリランカ12ヶ月<br>教官          |                    |
|  | SL3-1-98-O.Surg<br>再建手術(ス)1年口腔外科  | SL10-1-99Res,Pros,Ortho.<br>歯科技術<br>補綴製作、歯科矯正<br>(ス)1年,歯科技士               |   |   |   |                    |
| スリランカへの<br>短期派遣日本人専門家  | SL4-1-98-O.Surg<br>手術室、集中治療室、中央<br>消毒室の運営(看護スタッフ)<br>(ス)6ヶ月、口腔外科  | SL11-1-99-Deans Off<br>歯科看護婦、衛生士<br>(ス)6ヶ月、学部長室                           | SL18-2-2000-Radio<br>放射線科運営<br>(ス)6ヶ月                 | SL24-2-2001-Rest<br>保存歯科専門家<br>(ス)6ヶ月 教官          | SL30-3-2002-Anat<br>Den.Anat,解剖学、<br>口腔解剖学専門家<br>(ス)6ヶ月 | スリランカに<br>おける訓練 33 |
|  | SL5-1-98-Anat<br>肉眼的解剖学、解剖museum<br>(ス)6ヶ月 解剖学  | SL12-1-99-Den.Anat<br>歯科硬、軟組織調製<br>(ス)6ヶ月、口腔解剖学                           | SL19-2-2000-Paedo<br>障害児の治療<br>(ス)6ヶ月、小児歯科            | SL25-2-2001-Prost.<br>補綴歯科専門家<br>(ス)6ヶ月、教官        | SL31-3-2002-Paedo<br>小児歯科専門家<br>(ス)6ヶ月                  |                    |
|  | SL6-1-98-Deans Off<br>歯科看護婦、衛生士<br>(ス)6ヶ月、学部長室  | SL13-1-99-Perio<br>歯周疾患治療の向上<br>(ス)6ヶ月、歯周病学                               | SL20-2-2000-Pharm.<br>薬理学カリキュラムの開発<br>(ス)2-3ヶ月        | SL26-2-2001-O.Surg<br>口腔外科専門家<br>(ス)6ヶ月           | SL32-3-02-ComDent<br>疫学者<br>(ス)6ヶ月                      |                    |
|  | SL7-1-98-O.Path<br>免疫組織化学および冷凍切片調製<br>(ス)3ヶ月 教官   | SL14-1-99-Ortho<br>不正咬合と機能的矯正装置<br>(ス)6ヶ月、矯正歯科                            |   |   |   |                    |
|  |   | SL15-1-99-CommDent<br>コンピュータ、統計、研究方法論<br>(ス)6ヶ月、歯科公衆衛生                    |   |   |   |                    |

|                             | 1998   | 1999   | 2000  | 2001   | 2002   |                      |
|-----------------------------|--|--|---|--|--|----------------------|
| 日本で訓練をうける<br>スリランカ人カウンターパート | J1-1-1998 Prost.<br>最新補綴歯科<br>(日本) 1年、補綴                             |  |   |  |  |                      |
|                             | J2-1-1998-O.Surg.<br>顔面変形と言語リハビリ<br>(日本) 6ヶ月、口腔外科                    | J6-1-1998-Paedo.<br>歯列弓空隙の管理、スチール歯冠<br>(日本) 6-9ヶ月、小児歯科 | J9-2-2000-Anat.<br>神経解剖学<br>(日本) 9ヶ月、解剖学<br>発生学 (日本) 9ヶ月、解剖学            | J13-2-2001-Dent.Anat.<br>口腔硬、軟組織<br>(日本) 9ヶ月、口腔解剖学       | J17-3-2002-O.Med.<br>顎関節症の治療<br>(日本) 6-12ヶ月、<br>口腔内科 |                      |
|                             | J3-1-1998-O.Path.,Gen.Path.<br>研究室技術スタッフ<br>口腔病理、一般病理<br>(日本) 6ヶ月    | J7-1-1999-Physio.<br>口腔生理学<br>(日本) 9ヶ月、生理学             | J10-2-2000-Perio.<br>上級歯周病学の治療法<br>(日本) 9ヶ月、歯周病学                        | J14-2-2001Pros.,Res.,Orth<br>歯科技工士<br>(日本) 6ヶ月           | J18-3-2002-O.Path<br>免疫組織化学<br>(日本) 6-12ヶ月、口腔病理      | 日本における<br>訓練 20      |
|                             | J4-1-1998-Comm.Dent.<br>疫学/コンピュータ/統計<br>研究方法論<br>(日本) 10-12ヶ月、歯科公衆衛生 | J8-1-1999-O.Med.<br>研究室技術スタッフ<br>血液学、臨床化学<br>(日本) 口腔内科 | J11-2-2000-Deans Off.<br>歯科看護婦<br>(日本) 6ヶ月、学部長室                         | J15-2-2001-Basic Sci.<br>研究室技術スタッフ<br>(日本) 6ヶ月、基礎科学      | J19-3-2002-Biochem.<br>口腔生化学的技術<br>(日本) 6ヶ月、生化学      |                      |
|                             | J5-1-1998-Reest.<br>歯冠、ブリッジ<br>(日本) 6ヶ月、保存歯科                         |  | J12-2-2000-Ortho.<br>歯科矯正学<br>歯科、顔面変形治療および<br>頭部計測法<br>(日本) 6-9ヶ月、歯科矯正学 | J16-2-2001-Radio<br>口腔、顎顔面放射線科医の<br>訓練<br>(日本) 12ヶ月、放射線学 | J20-3-2002-Gen.Path.<br>分子生物学<br>(日本) 6-12ヶ月<br>口腔病理 | 日本における<br>訓練<br>計 25 |
|                             | J21-1-1-1998 Deans Off<br>歯科看護婦<br>(日本) 6ヶ月、学部長室                     | J22-1-1999-O.Surg.<br>病院看護婦<br>(日本) 6ヶ月、学部長室           | J23-2-2000Pros,Res,Ortho<br>歯科技工士<br>(日本) 6ヶ月                           | J24-2-2001Pros,Res,Orth<br>歯科技工士<br>(日本) 6ヶ月             | J25-3-2002 Radio<br>放射線技師<br>(日本) 6ヶ月、放射線科           | 日本における<br>訓練 5       |

# 付 録 VI





## 付録Ⅵ スリランカおよび日本における訓練プログラムリスト

### スリランカにおける訓練プログラムリスト

| <u>プログラム番号および部門</u>                          | <u>プログラム名</u>                        |
|--|--------------------------------------|
| SL(0-3) (1997-2003) DEANS<br>学部長室            | 歯学部、病院の運営                            |
| SL:1-1-1998 REST., PROS.<br>保存歯科             | 歯内治療学、歯科手術、歯科理工学                     |
| SL1-1-1998 REST., PROS<br>歯科補綴学              | 上級歯科補綴、顎顔面補綴および金属義歯等                 |
| SL: 2 -1-1998 REST.,PROS., ORTHO<br>矯正、保存、補綴 | 歯科補綴、保存、矯正技術                         |
| SL:3-1-1998 O.SURG.<br>口腔外科                  | 顎顔面軟組織再建手術                           |
| SL:4-1-1998 O. SURG.<br>口腔外科                 | 手術室、集中治療室、中央消毒室の運営                   |
| SL:5-1-1998 ANAT.<br>解剖学                     | 標本調整、anatomical museum 等、<br>解剖用死体保存 |
| SL:6-1-1998 DEAN'S OFF.<br>学部長室              | 歯科看護、衛生士の医療サービス                      |
| SL:7-1-1998 ORAL PATH<br>口腔病理、一般病理           | 免疫組織科学および凍結切片調製                      |
| SL:8-1-1999 REST.<br>保存                      | 歯内治療 歯科手術および歯科理工学                    |
| SL:9-1-1999 PROS<br>補綴                       | 上級歯科補綴、研究技術                          |
| SL:10-1-1999 REST.,PROS.,ORTHO.<br>歯科矯正学     | 歯科補綴、保存、矯正技術                         |

スリランカにおける訓練プログラムリスト

| <u>プログラム番号、部門</u>                  | <u>プログラム名</u>                           |
|------------------------------------|---|
| SL:11-1-1999 DEAN'S OFF.<br>学部長室   | 歯科看護/衛生士業務                              |
| SL:12-1-1999 DANAT.<br>歯科解剖学       | 歯科軟、硬組織に関する教育資料の開発                      |
| SL:13-1-1999 PERIO.<br>歯周病学        | 歯周疾患の治療技術向上                             |
| SL:14-1-1999 ORTHO.<br>矯正歯科        | functional appliancesを使用しての<br>不正咬合患者治療 |
| SL:15-1-1999 COMM.DENT.<br>歯科公衆衛生学 | コンピューター/統計および研究方法論                      |
| SL:16-2-2000 MICRO.<br>微生物学        | 口腔微生物学                                  |
| SL:17-2-2000 O.PATH.<br>口腔病理       | 免疫組織化学と日常の診断                            |
| SL:18-2-2000 RADIOL.<br>口腔外科放射線学   | 口腔外科放射線学                                |
| SL:19-2-2000 PAEDO.<br>小児歯科        | 心理的に傷ついた有病小児患者の治療                       |
| SL:20-2-2000 PHARMO.<br>薬理学        | 薬理学のカリキュラム開発                            |
| SL:21-2-2000 DEAN'S OFF.<br>学部長室   | 医療機材のサービスおよび修理                          |
| SL:22-2-2000 PHYS.<br>生理学          | 生理学実験                                   |

スリランカにおける訓練プログラムリスト

| <u>プログラム番号、部門</u>                    | <u>プログラム名</u>                                   |
|--------------------------------------|---|
| SL:23-2-2001 BIOCHEM.<br>生化学         | 生化学カリキュラム開発                                     |
| SL:24-2-2001 REST.<br>歯科保存学          | 歯冠、ブリッジ等、歯内治療学上級訓練<br>Operative Dentistry、歯科理工学 |
| SL:25-2-2001 PROS.<br>歯科補綴学          | 補綴歯科上級訓練  |
| SL:26-2-2001 O.SURG.<br>口腔外科         | 口唇口蓋裂患者の二次外科的処置                                 |
| SL:27-2-2001 GEN.PATH.<br>一般病理学      | 基礎分子生物学診断技術                                     |
| SL:28-3-2002 O.MED.<br>口腔診断学         | 口腔粘膜疾患の治療                                       |
| SL:29-3-2001 REST.<br>歯科保存学          | 歯科材料  |
| SL:30-3-2002 ANAT., D.ANAT.<br>歯科解剖学 | 解剖学教育と研究の向上                                     |
| SL:31-3-2002 PAEDO.<br>小児歯科          | 歯の発達異常を持つ小児の治療                                  |
| SL:32-3-2002 COMM.<br>歯科公衆衛生学        | 疫学  |
| SL:33-3-2002 DEAN'S OFF.<br>学部長室     | 歯科看護および衛生士の業務                                   |

## 日本における訓練プログラム

| <u>プログラム番号、部門</u>                      | <u>プログラム名</u>                   |
|--|---------------------------------|
| J:0 1997 DEAN'S OFF.<br>学部長室           | 歯科用機材の供給と修理                     |
| J:1-1-1998 PROS<br>歯科補綴学               | 最新の歯科補綴学                        |
| J:2-1-1998 O.SURG.<br>口腔外科             | 顔面変形および言語リハビリ                   |
| J:3-1-1998 O.PATH.,G.PATH.<br>一般、口腔病理学 | 研究技術者、口腔、一般病理学                  |
| J:4-1-1998 COMM.DENT.<br>歯科公衆衛生学       | 歯科公衆衛生                          |
| J:5-1-1998 REST<br>歯科保存学               | 上級歯科保存学（歯冠、ブリッジ）                |
| J:21-1-1998 DEAN'S OFF.<br>学部長室        | 歯科看護                            |
| J:6-1-1999 PEDO.<br>矯正歯科               | Space maintenanceおよびステンレス<br>歯冠 |
| J:7-1-1999 phys. 生理学                   | 口腔生理学教育                         |
| J:8-1-1999 O.MED.<br>口腔診断学             | 血液学および生化学的検査技術                  |
| J:22-1-1999 O.SURG.<br>口腔外科            | 病院看護実習                          |
| J:9-2-2000 ANAT.<br>解剖学                | 歯学部生のための神経解剖学、発生学               |
| J:10-2-2000 PERIO.<br>歯周病学             | 進行歯周病の治療                        |

日本における訓練プログラム

| <u>プログラム番号、部門</u>                             | <u>プログラム名</u>               |
|---|-----------------------------|
| J:11-2000 DEAN' OFF.<br>学部長室                  | 歯科看護                        |
| J:12-2-2000 ORTHO.<br>歯科矯正学                   | 歯、顔面変形に対する頭部測定、歯科矯正<br>治療方法 |
| J:23-2-2000 REST.,PROS.,ORTHO.<br>歯科保存、補綴、矯正学 | 歯科技工士                       |
| J:13-2-2001 D.ANAT.<br>歯科解剖学                  | 歯科軟、硬組織に関する教育向上             |
| J:14-2-2001 RST.,PROS.,PRTHO<br>歯科保存、補綴、矯正学   | 歯科技工士（1）                    |
| J:15-2-2001 BASIC SCI.<br>基礎科学                | 基礎科学実験                      |
| J:16-2-2001 RADIOL.<br>口腔、顎顔面放射線学             | 口腔、顎顔面放射線学                  |
| J:24-2-2001 REST.,PROS.,ORTHO<br>歯科保存、補綴、矯正学  | 歯科技工士                       |
| J:17-3-2002 O.MED.<br>口腔内科学                   | 顎関節症の治療                     |
| J:18-3-2002 G.PATH.<br>口腔病理学                  | 免疫組織化学                      |
| J:19-3-2002 BIO.CHEM.<br>一般病理学                | 基礎分子生物学 診断技術                |
| J:25-3-2002 RADIOL.<br>口腔、顎顔面放射線学             | 歯科放射線技師の訓練                  |



スリランカにおける  
訓練プログラム

SL : 1 - 1 - 1998 - REST. PROSTH.

| 国名 | プログラム<br>番号 | フェーズ | 年 | 学科 |
|----|-------------|------|---|----|
|----|-------------|------|---|----|





プログラム番号： SL (0~3) (1997~2003) DEAN'S OFF.

部門： 学部長室

訓練タイトル： 歯学部および病院の運営

訓練目標： 訓練後、研修生は  
新歯学部および病院を効率的に運営できるようになる。

実施予定場所： ペラデニヤ

期間： 5年間

研修生：

教材：

FDS およびUPへの設備投入 (添付ページ参照)

プログラムの要約  
上位目標

新歯学部および病院の管理機能を最高水準に維持する

直接目標

学部長室スタッフの運営能力を訓練する

成果 (訓練結果)

1. 運営の原理、概念、定義  
主な機能の理解
2. 財政、在庫、人材  
時間の運用原則の理解
3. 学部長室の組織、  
運営に必要な技術  
の取得
4. コンピューターによる  
事務処理能力取得

追加情報 付録参照

追加情報： (付録参照)

付録

追加情報：

プログラム番号 : SL(0-3)(1997-2003) DEAN'S OFF.

部門 : 学部長室

訓練名 : 歯学部および病院の運営

FDP / UPへの機材投入

| 品目 / 会社  | 仕様                                     |
|--|--|
| 1. デスクトップデジタル複写機                               | ( DUPLO DP 4030 )                      |
| Duplo Corporation<br>東京都狛江市泉本町1-7-6<br>〒201 日本 | 400dpi<br>用紙サイズ<br>105×148-302×438mm   |
| 2. 複写機付属品                                      |  |
| Roll Master                                    | DR 650/A3 サイズ                          |
| インクパッド   | 600cc                                  |
| スペアドラムユニット                                     | DP4030/A3 サイズ                          |
| コンピュータ接続キット                                    |  |
| LCD Edit board / Digitizer                     |  |
| 3. デジタル複写機対応コンピュータ                             | Pentium                                |
| 4. スキャナー (フラット型)                               |  |
| 5. Laminating Machine                          | 富士 Lamipacker LPD 3204<br>パウチタイプ 320mm |
| 6. 用紙カッター<br>paper trimmer                     | IDEAL 1080<br>800mm 40枚                |
| 7. シュレッダー                                      | IDEAL 2600 Desk Side<br>20×260mm       |
| 8. 製本用 スタイプラー                                  | MAX EH30F electric 2-50                |
| 9. 製本機   | IBIMASTER<br>wire & spiral binding     |

プログラム番号：SL:1-1-1998 REST., PROS.

部門：歯科保存学

訓練名：歯内治療学、Operative Dentistry、歯科理工学

研修生は訓練により、すべての歯内治療、Operative Dentistry に対し、医療サービス、訓練、研究のための対応、処置が実行できるようになる。

実施予定地：ペラデニヤ

期間：12ヶ月

研修生：歯科保存学、教官および歯科技工士

指導者：歯内治療学、歯冠、ブリッジ、operative dentistry、および歯科理工学  
専門家

教材：歯内治療、歯冠、ブリッジ用資材、slides models, 訓練用補助機器

FDS/UPへの投入機材：歯内治療用付属品

ループ、超音波bath, 混合資材用小型冷蔵庫

### プロジェクト要約

#### 上位目標

歯科保存学の医療ケアおよび教育が国際的水準へ到達する。

#### 直接目的

Operative Dentistryの知識、歯科保存学教官の教育、運営能力が向上する。

#### 成果（訓練結果）

1. 歯内治療の基本的理論的臨床技術を取得する。
2. 歯冠、ブリッジの基本的理論的臨床および技術の取得する。
3. operative dentistryに関する訓練技術が向上する。
4. 歯科理工学の訓練を強化する。
5. 医療ケア、取得訓練の水準向上する。

#### 追加情報：

本プログラムは歯科保存学、4学科を含む訓練プログラムである。

プログラム番号 : SL:1-1-1998 REST.,PROS.

部門 : 歯科補綴学

訓練名 : 顎顔面補綴および金属床等、上級歯科補綴学

直接目標 : トレーニングにより研修生は治療計画設計、上級補綴を習得する。

実施予定地 : ペラデニヤ

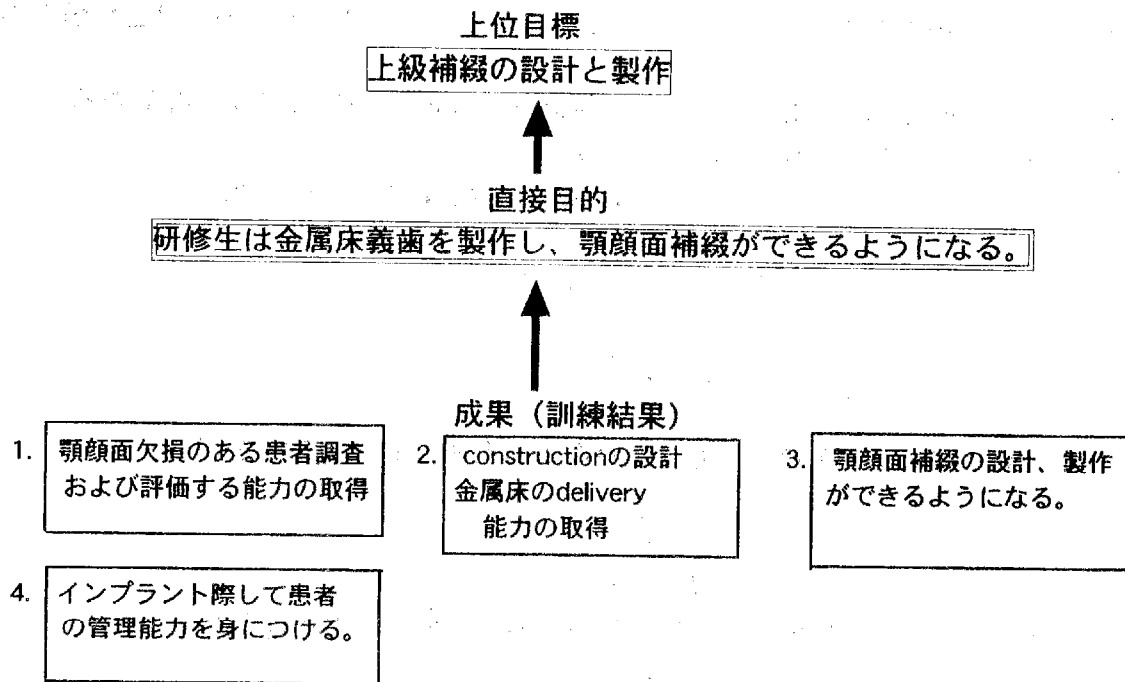
期間 : 12ヶ月

研修生 : 上級教官、歯科技工士

教材 : コバルトクロム、シリコンゴムmaterial osseo-integrated implants

FDS/UPへの投入機材 : インプラント設置用のドリル、鑄造機

### プログラムの要約



追加情報 : 付録 参照

付録：

追加情報：

プログラム番号：SL:1-1-1998 REST., PROS.

部門：補綴歯科

訓練名：上級補綴（顎顔面補綴、金属床等）

訓練用教材 および FDS/UP への投入機材：

1. 印象用ゴム rubber base impression material
2. Plaster bandage
3. Draught 除去機
4. ビーディング用ワックス
5. ボクシング用ワックス
6. carving wax
7. 接着剤
8. リムーバー
9. シリコン
10. Master Colour
11. Extrinsic colours
12. 義眼

金属鑄造用 - For removal partial dentures

高周波遠心鑄造機-品番 A092 (メーカー：モリタ(株)-Model - Eagle)

1. クロムコバルト合金
2. blocking our wax
3. duplication gel
4. wax pattern
5. 埋没材
6. るつぼ
7. casting ring
8. タングステンカーバイド
9. cutting off discs
10. rubber wheel and points
11. 赤および緑研磨材
12. 印象用ワックス
13. 融材

インプラント義歯用

1. インプラント用ユニット (FRIATEC) - モリタ(株)
2. Osseo integrated インプラントセット 付属品付き

教材

1. 書籍 補綴リハビリ Keith F. Thomas, Quintessence出版, 1994  
ISBN 1-85097-032-2
2. 口腔インプラント学  
A.Schroeder / F.Sutter / D.Burser / Theime  
Medical Publication, New York
3. ビデオ
  - 1) 金属鑄造について
  - 2) 顎顔面補綴
  - 3) インプラント義歯

プログラム番号 : SL:2-1-1998 REST., PROS., ORTHO.

部門 : 歯科保存、補綴、矯正学

訓練名 : 歯科保存、補綴、矯正技術

直接目標 : 訓練により研修生は臨床家による正確な指導により最新式removal functional appliances および固定appliance component すべて製作することができる。

実施予定地 : ペラデニヤ

期間 : 12ヶ月

研修生 : 各学科の技術者

教材 :

FDS/UP投入機材 :

### プログラム要約

#### 上位目標

矯正、保存、補綴歯科患者への医療サービスが質、量的に向上する。  
技術者の理論的、技術的能力の向上

#### 直接目的

歯科矯正学におけるremoval functional and fixed appliance 製作用器具の知識が向上する。保存、補綴、矯正歯科技工士の理論的、技術的能力が向上する。

#### 成果（訓練結果）

1. removal fixed and functional appliancesの基本原理の理解

2. 処方せんの理解および各種装置の製作技術を取得する。

3. 矯正歯科技工室器具の維持能力取得

4. 保存、補綴歯科技工士の技術向上

プログラム番号 : SL:3-1-1998 O.SURG .  
 部門 : 口腔外科  
 訓練名 : 顎顔面軟組織再建術  
 直接目標 : 訓練により研修生は口腔悪性腫瘍除去後のmicrovascular および  
 nerve anastomosis等free flaps を用いた再建手術が可能となる。  
 実施予定地 : ペラデニヤ  
 期間 : 12ヶ月  
 研修生 : 口腔外科教官、その他興味のある医師  
 (口腔外科、耳鼻科、形成外科)  
 指導者 : vascularised free flap手術 (上腕外側, latissimus dorsi, deep  
 circumflex iliac groin, revascularised rib, 肩甲骨, inferior rectus  
 abdominis等、神経吻合含む) における日本人専門家  
 教材 : 付録 参照  
 FDS/UP投入機材 :

プログラム要約  
 上位目標

スリランカにおける口腔、顎顔面悪性腫瘍除去手術後の再建手術の質が向上する。



直接目的

国際的水準を維持し、口腔外科医がmicrovascular and nerve anastomosis等、free grafts を使用して再建手術を行うことができる。



成果 (訓練結果)

1. 口腔外科においてfree flaps を使用しての再建手術の理論を理解する。

2. free flapを使つての再建手術に要する臨床技術を取得する。

3. スリランカでの free flap 手術用訓練短期プログラムを開発する。

追加情報 : 付録 参照



付録

追加情報：

訓練名：顎顔面軟組織再建手術

教材：microvascular 手術の原理と実践についての教科書

Reconstructive Microsurgery by Daniel RK, Terris JK. LITTLE, Brown Boston  
Microvascular Tissue Transfer-基本技術と臨床応用, 医学書院, 東京

コンピュータソフト (顕微手術の技術について)

視聴覚教具 (顕微手術について)

機材：

| 数量 | 品名  | カタログ番号             | メーカー                             |
|----|---|--------------------|----------------------------------|
| 1  | 血液ガス分析<br>1年用キット付   | SENDIX-STAT PAL II | Sendix Medical Inc.<br>USA       |
| 1  | floor stand および<br>二重立体鏡付き手術用顕微鏡<br>dual stereo   | WILD/M651MS-C      | Leica, Heerburgg,<br>Switzerland |
| 5  | microvascular手術用<br>器具セット (micro鉗子, micro scissors<br>micro needle holder, 血管拡張器,<br>血管用クランプ) | JMC 9-2775         | JMC カタログ                         |
| 1  | 電動 止血帯  | JMC 9-02032        | JMCカタログ                          |
| 1  | 呼吸器 (ICU治療)   | ART1000            |                                  |
| 1  | 心電計 12lead ECG 記録用<br>モニター付   | ECU-8820KD         | NIHON-KODEN                      |
| 2  | Syringe Pump  | IVACP3000          | Ivac Medical<br>Systems,<br>USA  |
| 2  | Patient controlled<br>Alagesia (PCA) Pump   | IVACP5000          | Ivac Medical<br>Systems,<br>USA  |
| 2  | Pulse 酸素濃度計   | OVL 1200B          | NIHON-KODEN                      |
| 2  | 神経stimulator  | Neurosign 100      | Magstim Co Ltd,<br>UK            |

プログラム番号：SL:4-1-1998 O.SURG.

部門：口腔外科

訓練名：手術室、集中治療室、中央消毒室の運営

直接目標：訓練により研修生は手術室、集中治療室、中央消毒室の機能の十分駆使できる。

実施予定地：ペラデニヤ

期間：6-12ヶ月

研修生：手術室、集中治療室、中央消毒室の看護スタッフ

指導者：手術室、集中治療室、中央消毒室運営の日本人専門家

教材：CPR処置用、成人および小児型挿管用マネキン

FDS/UP 投入機材：

### プログラム要約

#### 上位目標

口腔外科での手術室、集中治療室、中央消毒室の運営水準を向上する。



#### 直接目標

手術室、集中治療室および中央消毒室において看護スタッフが十分に職務を果たす。



#### 成果（訓練結果）

1. 手術室、集中治療室、中央消毒室の機能を理解する。

2. 手術室、集中治療室、中央消毒室における無菌技術の実際を理解する。

3. 専門器具の保管、使用、整備を理解する。

4. 手術室、集中治療室、中央消毒室におけるスタッフの管理を理解する。

5. 手術室、集中治療室、中央消毒室における記録管理を理解する。

追加情報： 付録参照

## 付録

### 追加情報：

訓練名：手術室、集中治療室、中央消毒室の運営

教材：視聴覚教具（感染予防方法、病院運営について）  
心肺蘇生術と関連する病院処置  
心肺蘇生用stimulator  
静脈procedure用stimulator  
気管内挿管 stimulator

### FDS/UP機材投入

| 数量 | 品名                  | カタログ番号      |
|----|---------------------|-------------|
| 2  | 救急用カート              | JMC 9-10169 |
| 2  | 器具用サイドテーブル          | JMC 9-10182 |
| 2  | 器具用キャリッジ            | JMC 9-10180 |
| 2  | chart file cart     | JMC 9-10170 |
| 2  | 薬品用カート              | JMC 9-10173 |
| 2  | 折り畳み式担架             | JMC 9-10151 |
| 2  | 中央消毒室用transfer cart | JMC 9-08091 |
| 6  | キャスト付器具用トレイ         | JMC 9-07675 |

プログラム番号 : SL:5-1-1998 ANAT.

部門 : 解剖学

訓練名 : 解剖学、Anatomical museumにおける標本調製および死体保存

直接目標 : 研修生は死体の選択、準備保存、museum specimenの準備、展示ができる。またanatomical museumの確立とexpansionのため資料を参照していくことができる。

実施予定地 : ペラデニヤ

期間 : 6ヶ月

研修生 : 教官 (6) 技術者 (4) モニタースタッフ (4)

指導者 : 肉眼解剖学 専門家

教材 : 解剖学用模型

FDS/UP投入機材 : シリコン包埋機、テレビカメラ/モニター (4) 付 顕微鏡、顕微鏡写真用付属品、解剖用ルーペ

### プログラム要約

#### 上位目標

解剖学における訓練プログラムが向上する。

#### 直接目的

解剖学における実践的訓練プログラムがよく保存された死体と Anatomical museumの供給により強化される。

#### 成果 (訓練結果)

1.

死体の受け取り、保存、保管の実際の手続きの developed

2.

死体保存に関する 高水準の能力取得

3.

器具取り扱いおよび薬物の完全な知識

4.

解剖およびmuseum specimens ,display能力獲得

#### 追加情報 :

- さらにMRIやCTを比較し、頭頸部の矢状および軸位切断による標本作製準備 またその解釈能力を取得する。
- museum用の教材、参考資料として、medical photography、顕微鏡写真撮影能力を取得

プログラム番号：SL:6-1-1998 DEAN'S OFF.

部門：学部長室

訓練名： 歯科看護婦、士および衛生士の医療サービス

直接目標： 訓練により研修生は臨床用設備を十分に取り扱うことができる。

実施予定地：ペラデニヤ

期間：6ヶ月

研修生：

教材：

FDS/UPへの投入機材：

### プログラム要約

#### 上位目標

新歯学部および病院で歯科看護、衛生士サービスの最高水準を確保する。



#### 直接目標

効率的に管理された臨床設備において歯科手術の助手、衛生士を訓練する。



#### 成果（訓練結果）

1. 歯科用チェア、ユニットの原理を理解する。
2. 歯科用機材、器具の日常管理と使用能力を取得する。
3. 消毒を実施する。
4. four handed dentistryの能力を取得する。
5. 患者の記録および予約記録管理を訓練する。
6. 歯科衛生士職務能力を取得する。

追加情報：

プログラム番号：SL: 7-1-1998 ORAL PATH.

部門：口腔病理／一般病理

訓練名：免疫組織化学および凍結切片試料

直接目標：研修生は訓練により日常診断の手術室試料の低温槽凍結切片が調整できる。 operation theatre material

実施予定地：ペラデニヤ

期間：3ヶ月

研修生：口腔病理学、教官および技術スタッフ全員

教材：2-3品目が必要

FDS/UP投入機材：低温槽が使用可能であること。実施時に2-3品目が必要になるとと思われる。

### プログラム要約

#### 上位目標

口腔免疫組織化学の診断パラメータが、質、量ともに向上する。

#### 直接目標

日常診断を手伝けとなる低温槽を調整および準備する。

#### 成果

1. 低温槽を十分に機能調整する。
2. 低温槽切片調整技術を全教室員がマスターする
3. 迅速な診断のための手術室での適切な品質管理システムが実施される。
4. すべての教室が円滑に運営されているか把握する。

追加情報：

プログラム番号 : SL:8-1-1998 REST.

部門 : 歯科保存学

訓練名 : 歯内治療学、保存修復学、歯科理工学

訓練後、研修生はすべての歯内治療学、歯科保存学の医療サービス、  
訓練、研究活動が実践できるようになる。

実施予定地 : ペラデニヤ

期間 : 12ヶ月

研修生 : 講師 4名、保存歯科技工士

指導者 : 歯内治療学、歯冠ブリッジ、保存修復学、歯科理工学に  
おける専門家

教材 : 歯科治療学、歯冠ブリッジ用材料、slides models, training aids

FDS/UP投入機材 : 歯内治療補助機材 (拡大loops, 超音波bath, コンポジット保存用  
小型冷蔵庫)

### プログラム要約 上位目標

歯科保存学の医療、訓練が国際水準へ到達する。

#### 直接目標

歯科保存学スタッフの知識、手術、訓練、運営能力が向上する。

#### 成果 (訓練結果)

1. 歯内治療学における基本的理論、臨床能力を取得する。
2. 歯冠ブリッジの基本的な理論、臨床および技術力を取得する。
3. 保存修復学の訓練技術が向上する。
4. 歯科理工学の訓練を強化する。
5. 医療ケア、訓練の達成水準が向上する。

#### 追加情報 :

この訓練プログラムは1年間の、保存歯科4学科を含むものであり、1人もしくは1人以上の専門家が日本から必要となる。

プログラム番号 : SL:9-1-1999 PROS

部門 : 歯科補綴学

訓練名 : 上級歯科補綴学、技工室技術(学術)

直接目標 : 訓練により研修生は金属鑄造、顎顔面補綴およびインプラント義歯に必要とされるLaboratory procedureの習得

実施予定地 : ペラデニヤ

期間 : 12ヶ月

研修生 : 上級歯科技工士

指導者 : 歯科技工術 専門家

教材 : コバルトクロム合金、シリコン、osseo-integrated implants

FDS/UP投入機材 : 鑄造機、milling machine

### プログラム要約

#### 上位目標

歯を含む顎顔面欠損の補綴リハビリの成功させる。

#### 直接目的

研修生は金属義歯鑄造、顎顔面補綴インプラント義歯の製作ができる。

#### 成果(訓練結果)

1. 技工室機材、歯科用資材の知識、laboratory techniqueを習得する。
2. アクリル義歯製作に関する基礎技術を習得する。
3. 咬合器により十分に調整して歯をsettingする技術を習得する。
4. 金属鑄造、顔面補綴、インプラント義歯の上級技術を習得する。